

尾
坂
遺
跡
(3)

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第56集

二〇一八

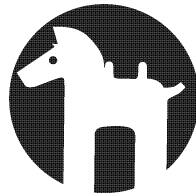
国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

尾坂遺跡(3)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第56集

2018

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



尾坂遺跡(3)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第56集

2018

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



尾坂遺跡遠景(東上空から)



尾坂遺跡近景(東上空から)

序

八ッ場ダムは、利水・治水・発電を行う多目的ダムとして吾妻川の中流に計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。この建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施しており、本年度で24年目を迎えています。

尾坂遺跡は調査開始当初の平成6年度から開始され、平成29年度までの約20年間に涉って、継続的に調査が実施されてきました。

調査の結果、縄文時代から近世にかけての多様な遺構、遺物が数多く検出されました。

今回は水没ラインに入る遺跡東縁部の調査を実施しました。特徴的な遺構、遺物としては、江戸時代では後期の天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う、泥流に埋まった広大な畑が発見されました。これは江戸時代の生産活動を考える上で、様々な資料を提供することになり、この地域における畑作農耕を考える上で重要な発見となりました。

また、畑の下からは、さらに古い時代の土坑や遺物が数は少ないものの検出されており、この地が吾妻川流域における居住域として、古くから利用されていたことを示す発見となりました。

こうした多岐にわたる貴重な資料が得られており、本書が吾妻郡内及び群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願います。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、及び長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 中野 三智男

例 言

- 1 本書は、平成28・29年度の八ッ場(やんば)ダム建設工事に伴う尾坂(おさか)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 今回の発掘調査の範囲は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂 1165-6、1165-8、1167、1168-1、1168-2、1170-1、1170-2、1171-1、1171-2、1171-3、1172、1174-2、1174-4、1180-1、1187-1、1189-1、1189-3、1189-5、1177-1、甲1179番地である。
本遺跡の名称は、長野原町教育委員会が実施した分布調査報告書『長野原町の遺跡』1990 に基づく。
(遺跡 I D414、県文化財システム遺跡番号 長野原町0201、八ッ場ダム関係埋蔵文化財遺跡番号 YD5-02)
- 3 発掘調査は、国土交通省関東地方整備局からの委託により、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
本遺跡の発掘調査時の組織体制は次の通りである。
期 間 平成28年11月1日～平成28年11月30日
平成29年2月1日～平成29年2月28日
面 積 1,940㎡
調査担当 笹澤泰史(主任調査研究員)・武井 学(調査研究員)
斎藤利昭(調査資料部長)
期 間 平成29年4月1日～平成29年6月30日
平成29年11月27日～平成29年12月1日
面 積 8,736㎡
調査担当 武井 学(調査研究員)・山本直哉(調査研究員)
- 4 発掘資料の整理および報告書の作成は、国土交通省関東地方整備局からの委託により、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書の作成期間・体制は次の通りである。
期 間 平成29年10月1日～平成30年1月31日
編 集 麻生敏隆
本文執筆 麻生敏隆 遺構写真 笹澤泰史・武井 学・山本直哉 遺物写真 麻生敏隆
遺物観察 麻生敏隆 写真図版作成 齊田智彦・デジタル班 保存処理 関 邦一・板垣泰之
- 5 本遺跡の発掘調査、及び整理事業については、下記の機関に協力を頂いた。
埋蔵文化財遺跡掘削工事 シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
遺構測量 株式会社測研 遺構デジタル編集 株式会社測研
石器実測・トレース シン技術コンサル株式会社
- 6 石材同定にあたっては飯島静男氏(群馬地質研究会)にご教示を得た。
- 7 出土遺物および遺構・遺物の図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財センターで保管の予定である。
- 8 本遺跡に関して、本報告以前にその概要が収録・公表されたのは下記の書籍である。
『年報36』 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2017、『遺跡は今25』 八ッ場ダム調査事務所 2017
- 9 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご協力・ご助言を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)
国土交通省八ッ場ダム工事事務所 群馬県教育委員会 長野原町教育委員会 白石光男 富田孝彦 長野原区

凡 例

- 1 本書で使用した国家座標は、世界測地系によるものである。本調査ではその数値をそのままグリッドとして使用した。
- 2 本書における遺構番号は算用数字で、調査時に付されたものをそのまま使用した。
- 3 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮尺率を併記した。
遺構図 土坑・ピット 1：40 道 1：40、1：200、1：400 その他は明記
遺物図 土師器・須恵器・灰釉陶器・中近世陶磁器 1：3、1：4 古銭・鉄製品 1：1、1：2
- 4 遺物番号は本文・挿図・表・写真図版と一致する。
- 5 畑等の面積は、畝柵の範囲の一単位の長軸と短軸を計測して、長軸×短軸で面積の算出をした。
- 6 挿図中の方位は調査時に使用したグリッドに準拠したものであるが、本文中の軸方向記載で用いた方位には、真北を用いた補正を行っている。
- 7 遺物観察表の出土位置の数字は調査時の取り上げ番号である。
- 8 遺物観察表の計測値には次の略語を使用した。
「底部径」→「底」 「重さ」→「重」 「口縁部径」→「口」 「長さ」→「長」 「厚さ」→「厚」
- 9 遺物の長さ・重量の計測にあたっては、製品、製造会社名、商品名、目量を表記する。
パーソナル電子天びん 株式会社エー・アンド・デイ EK-i/EW-iシリーズ 計測0.1g単位
カーボンファイバーノギス 株式会社田島製作所 BLACK-15 計測0.01cm単位
- 10 各地図について、使用した原図類の名称については、その都度記載している。

目次

口絵

序

例言 凡例

目次 挿図目次 表目次 写真目次

報告書抄録

第1章 調査の方法と経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	2
第3節 発掘調査の経過	2
第4節 整理の方法と経過	4
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地理	6
第2節 地形と地質	7
第3節 歴史	7
第4節 基本土層	12
第3章 検出された遺構と遺物	13
第1節 遺跡の概要	13
第2節 江戸時代の遺構と遺物	14
(1)遺構	14
(2)出土遺物	21
第3節 中近世の遺構と遺物	22
(1)遺構	22
(2)出土遺物	35
第4章 まとめ	37
第1節 畑	37

遺構一覧表

遺物観察表

写真図版

奥付

付図

挿図目次

第1図	尾坂遺跡位置図	1
第2図	年度別調査区図	3
第3図	調査区の設定	4
第4図	段丘面分布図	6
第5図	周辺遺跡	9
第6図	基本土層	12
第7図	尾坂遺跡A区畑番号図	16
第8図	尾坂遺跡B区畑番号図	(折込)
第9図	尾坂遺跡E区畑番号図	19
第10図	尾坂遺跡E区道番号図	20
第11図	土坑(1)	23
第12図	土坑(2)	25
第13図	土坑(3)	27
第14図	土坑(4)	29
第15図	土坑(5)	31
第16図	土坑(6)	32
第17図	ピット(1)	33
第18図	ピット(2)・19号焼土	34
第19図	A区出土遺物	35
第20図	B区出土遺物	35
第21図	C区出土遺物	36
第22図	D区出土遺物	36
第23図	縄文土器出土分布図	38
第24図	近世陶磁器・在地土器出土分布図	39

表目次

表1	周辺遺跡一覧表	10
表2	遺構数一覧表	37
表3	遺構一覧表	40
表4	遺物観察表	41

写真目次

P L. 1	1. A区1面全景(南から)	
	2. A区1面全景(北から)	
	3. A区20号道全景(南西から)	
	4. A区2面全景(南西から)	
	5. A区400号土坑・1号壁セクション(南東から)	
	6. A区401号土坑セクション(北西から)	
	7. A区401号土坑全景(北西から)	
	8. A区402号土坑セクション(北西から)	
	9. A区402号土坑全景(北西から)	
	10. A区403号土坑セクション(北西から)	
P L. 2	1. A区404号土坑セクション(北から)	
	2. A区404号土坑全景(北から)	
	3. A区405号土坑セクション(南西から)	
	4. A区405号土坑全景(北東から)	
	5. A区406号土坑セクション(南から)	
	6. A区406号土坑全景(南から)	
	7. A区407号土坑セクション(南から)	
	8. A区407号土坑全景(北東から)	
	9. A区408号土坑セクション(南西から)	
	10. A区408号土坑全景(南から)	
	11. A区2号壁(東壁)セクション(西から)	
	12. A区3号壁(東壁)セクション(西から)	

P L. 3	1. B区1面北部(南東から)	
	2. B区1面北西部(北西から)	
	3. B区1面北西部(南から)	
	4. B区1面中央部(北東から)	
	5. B区1面中央部(北から)	
	6. B区2面全景(南から)	
	7. B区2面北部(南西から)	
	8. B区2面北東部(北から)	
P L. 4	1. B区2面南部(南西から)	
	2. B区遺物出土状態(南から)	
	3. B区409号土坑セクション(南東から)	
	4. B区409号土坑全景(南東から)	
	5. B区410号土坑セクション(西から)	
	6. B区411号土坑セクション(南から)	
	7. B区410・411号土坑全景(西から)	
	8. B区412号土坑セクション(北東から)	
	9. B区412号土坑全景(南東から)	
	10. B区413号土坑セクション(北東から)	
	11. B区413号土坑全景(南から)	
P L. 5	1. B区414号土坑セクション(南西から)	
	2. B区414号土坑全景(南東から)	
	3. B区415号土坑セクション(南東から)	
	4. B区415号土坑全景(南から)	
	5. B区416号土坑セクション(西から)	
	6. B区416号土坑全景(東から)	
	7. B区417号土坑セクション(南東から)	
	8. B区417号土坑全景(南西から)	
	9. B区418号土坑セクション(南から)	
	10. B区418号土坑全景(南から)	
	11. B区419号土坑セクション(北東から)	
	12. B区419号土坑全景(北東から)	
	13. B区420号土坑セクション(南西から)	
	14. B区420号土坑全景(南から)	
	15. B区421号土坑セクション(西から)	
P L. 6	1. B区421号土坑全景(東から)	
	2. B区422号土坑セクション(南から)	
	3. B区423号土坑セクション(東から)	
	4. B区423号土坑全景(西から)	
	5. B区424号土坑セクション(南東から)	
	6. B区424号土坑全景(東から)	
	7. B区425号土坑セクション(南から)	
	8. B区425号土坑全景(南東から)	
	9. B区426号土坑セクション(南東から)	
	10. B区426号土坑全景(南から)	
	11. B区427号土坑セクション(南から)	
	12. B区427号土坑全景(南東から)	
	13. B区101号ピットセクション(北から)	
	14. B区102号ピットセクション(南西から)	
	15. B区103号ピットセクション(東から)	
	16. B区104号ピットセクション(南東から)	
P L. 7	1. B区105号ピットセクション(南東から)	
	2. B区106号ピットセクション(南東から)	
	3. B区107号ピットセクション(南東から)	
	4. B区108号ピットセクション(東から)	
	5. B区109号ピットセクション(南東から)	
	6. B区110号ピットセクション(南から)	
	7. B区111号ピットセクション(南東から)	
	8. B区112号ピットセクション(東から)	
	9. B区113号ピットセクション(東から)	
	10. B区114号ピットセクション(南から)	
	11. B区115号ピットセクション(東から)	
	12. B区116号ピットセクション(東から)	
	13. B区117号ピットセクション(南東から)	
	14. B区118号ピットセクション(南東から)	
	15. B区119号ピットセクション(北東から)	
	16. B区120号ピットセクション(北東から)	

17. B区121号ピットセクション(東から)
 18. B区122号ピットセクション(北西から)
 19. B区123号ピットセクション(東から)
 20. B区124号ピットセクション(南東から)
 21. B区125号ピットセクション(南から)
 22. B区126号ピットセクション(南東から)
 23. B区127号ピットセクション(南東から)
 24. B区128号ピットセクション(南西から)
- P L. 8 1. B区19号焼土セクション(北から)
 2. B区1号壁(西壁)セクション(南東から)
 3. B区2号壁(西壁)セクション(南東から)
 4. B区3号壁(西壁)セクション(東から)
 5. B区4号壁(北壁)セクション(南から)
 6. B区5号壁(東壁)セクション(西から)
 7. B区6号壁(南東壁)セクション(北西から)
 8. B区1号トレンチ全景(西から)
- P L. 9 1. B区2号トレンチ全景(南から)
 2. B区3号トレンチ全景(南から)
 3. B区4号トレンチ全景(東から)
 4. B区5号トレンチ全景(東から)
 5. C区全景(南から)
 6. C区西部(南から)
 7. C区西部(西から)
 8. C区東部(東から)
- P L. 10 1. C区耕作痕(北から)
 2. C区拡張部(西から)
 3. C区拡張部(東から)
 4. C区8号石垣全景(西から)
 5. C区遺物出土状態(南から)
 6. C区遺物出土状態(南から)
 7. C区遺物出土状態(南から)
 8. C区8号石垣・1号トレンチセクション(南から)
- P L. 11 1. C区2号トレンチ全景(南西から)
 2. C区3号トレンチ全景(東から)
 3. C区4号トレンチ(北から)
 4. C区5号トレンチ(北から)
 5. C区6号トレンチ(西から)
 6. C区7号トレンチ(南から)
 7. C区8号トレンチ(東から)
- P L. 12 1. D区1面北西部(東から)
 2. D区1面北西部(北西から)
 3. D区2面北西部(西から)
 4. D区2面北西部(東から)
 5. D区1面北東部(東から)
 6. D区2面北東部(東から)
 7. D区1面南部(東から)
 8. D区1面南部(東から)
- P L. 13 1. D区428号土坑セクション(南西から)
 2. D区428号土坑全景(北東から)
 3. D区429号土坑セクション(北東から)
 4. D区429号土坑全景(北東から)
 5. D区430号土坑セクション(北から)
 6. D区430号土坑全景(東から)
 7. D区430号土坑完掘(南から)
 8. D区431号土坑セクション(南東から)
 9. D区431号土坑全景(南西から)
 10. D区432号土坑セクション(北から)
 11. D区432号土坑全景(北東から)
 12. D区433号土坑セクション(東から)
 13. D区433号土坑全景(東から)
 14. D区434号土坑セクション(北から)
 15. D区434号土坑全景(北西から)
- P L. 14 1. D区435号土坑セクション(西から)
 2. D区435号土坑全景(西から)
 3. D区436号土坑セクション(東から)
 4. D区437号土坑セクション(西から)
5. D区437号土坑全景(北西から)
 6. D区438号土坑セクション(南西から)
 7. D区438号土坑全景(南西から)
 8. D区439号土坑セクション(北から)
 9. D区439号土坑全景(北東から)
 10. D区440号土坑セクション(南西から)
 11. D区440号土坑全景(南から)
 12. D区441号土坑セクション(北西から)
 13. D区441号土坑全景(北西から)
 14. D区129号ピットセクション(西から)
 15. D区130号ピットセクション(南から)
- P L. 15 1. D区131号ピットセクション(南から)
 2. D区132号ピットセクション(南東から)
 3. D区133号ピットセクション(南東から)
 4. D区23号道全景(南から)
 5. D区23号道セクション(東から)
 6. D区1号壁セクション(南から)
 7. D区1号トレンチ(南東から)
 8. D区2号トレンチ(南東から)
 9. D区3号トレンチ(南東から)
- P L. 16 1. D区4号トレンチ(南東から)
 2. D区5号トレンチ(南西から)
 3. D区6号トレンチ(東から)
 4. D区7号トレンチ(東から)
 5. D区8号トレンチ(南から)
 6. D区9号トレンチ全景(北から)
 7. D区10号トレンチ全景(南から)
 8. D区11号トレンチ全景(東から)
- P L. 17 1. D区12号トレンチ全景(東から)
 2. E区全景(西から)
 3. E区全景(東から)
 4. E区22号道(西から)
 5. 調査準備風景(南から)
 6. A区調査風景(西から)
 7. A区1面畑調査風景(南から)
 8. B区1面掘削作業風景(南から)
- P L. 18 1. B区1面調査風景(北東から)
 2. B区1面畑調査風景(南西から)
 3. B区2面調査風景(北西から)
 4. B区409号土坑調査風景(北から)
 5. B区2号トレンチ調査風景(南から)
 6. B区北西部埋め戻し作業風景(北から)
 7. C区1面調査風景(西から)
 8. C区1面西部調査風景(南から)
- P L. 19 1. C区1面東部調査風景(北から)
 2. C区1面東部畑調査風景(北西から)
 3. C区2号トレンチ調査風景(西から)
 4. C区5・6号トレンチ調査風景(北から)
 5. D区表土掘削風景(東から)
 6. D区南部表土掘削風景(東から)
 7. D区北西部測量作業風景(東から)
 8. D区北西部調査風景(東から)
- P L. 20 1. D区南部23号道調査風景(南から)
 2. E区1面掘削作業風景(北から)
 3. E区調査風景(東から)
 4. E区掘削状況(南西から)
 5. E区40畑、24・25号道検出状況(南から)
 6. E区1号トレンチ：5-3畑検出状況(南から)
 7. E区2号トレンチ：5-3畑、24号道検出状況(西から)
 8. E区3号トレンチ：5-4畑、24号道検出状況(西から)
- P L. 21 A区出土遺物
 B区出土遺物
 C区出土遺物
 D区出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	おさかいせき さん
書名	尾坂遺跡(3)
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	58
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	638
編著者名	麻生敏隆
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20180315
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	おさかいせき
遺跡名	尾坂遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのほらまちおおあざながのほらあざおさか
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂
市町村コード	10424
遺跡番号	0201
北緯(世界測地系)	363240
東経(世界測地系)	1383912
調査期間	20161101-20161130/20170201-20170228/20170401-20170731/20171201-20171207
調査面積	10,676㎡
調査原因	八ッ場ダム建設工事に伴う代替地造成工事
種別	生産/その他
主な時代	縄文・中近世・江戸
遺跡概要	縄文-土器/中近世-土坑42+ピット33/江戸-畑+道6
特記事項	天明三年(1783)浅間山噴火に伴う泥石流堆積物によって覆われた生産跡。
要約	本書は八ッ場ダム建設工事に伴い平成28年度に発掘調査が行われた尾坂遺跡の報告である。吾妻川の左岸に形成された河岸段丘中位面上に位置し、南に開く緩やかな扇状地形である。標高は570～584.5mで、東側の栃ノ木沢と西側の谷地形に挟まれ、遺跡内には湧水点も存在する。現在の河床からの高さは約10～25mに位置する。検出された遺構・遺跡は天明泥流に覆われた畑や道など、中近世の土坑や、陶磁器や銭貨や煙管などの金属製品、縄文時代中期後半の土器である。江戸時代の畑や中近世の土坑42基、ピット33基、道6本、石垣2か所などを報告する。

第1章 調査の方法と経過

第1節 発掘調査に至る経緯

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、東吾妻町教育委員会が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成6年3月18日に「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」を締結し、八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定された事によって開始される事となった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、同年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査委託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、平成6年度から八ッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

その後、平成11年4月1日に「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」が締結され、それ以降は調査実施機関を財団

法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。

さらに、平成17年4月1日に期間変更の協定書変更がなされ、平成28年度末までに第5回の変更を行い、継続されている。

尾坂遺跡は、平成6・7年度の立会・試掘調査の成果を踏まえた平成11年度の発掘調査が行われ、その調査内容は平成14(2002)年刊行の「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」に収録された。平成18年度には川原畑地区代替地造成工事に伴う発掘調査が行われ、平成28(2016)年に「尾坂遺跡(2)」が刊行された。

遺跡全体で約18,000㎡が当初は対象であったが、工事に絡む関係で開始の時期を計4か年、5次に分割して実施した。各年度の期間、面積は平成12年度が9月から12月までの4か月の間に1,865㎡、平成13年度が7月から2回で10,690㎡、平成16年度が4月から7月までの4か月間に1,130㎡、平成17年度が9月から12月までの4か月間の3,812㎡であり、合計で17,497㎡である。

そして、今回の発掘調査が、平成28年11月の1か月と、平成29年2月の1か月、平成29年4月～6月の3か月と、平成29年12月の約1か月を合わせた約6か月で、面積が10,676㎡である。

なお、各年次の調査範囲は第2図に表示したとおりである。

尾坂遺跡

0 1:50000 2km

第1図 尾坂遺跡位置図(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

これまでに、『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』、『尾坂遺跡(2)』として2冊の報告書がそれぞれ刊行され、本報告書を『尾坂遺跡(3)』として刊行する。

第2節 発掘調査の方法

平成6年度から始まったハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査においては遺跡名称の略号、調査区(グリッド)の設定については「ハッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき実施されてきた。本報告でもこれに準じ必要箇所について記載する事とする。

発掘調査における遺跡番号はハッ場ダム建設にかかわる長野原町の大字5地区(1. 川原畑、2. 川原湯、3. 横壁、4. 林、5. 長野原)ごとに番号を付与し、ハッ場ダム建設に伴う略称「YD」の後ろに続けた。略称、地区番号の次にはハイフン(ー)を記入し、その次に各地区内に所在する遺跡に対して発掘調査順に通し番号を付与して遺跡略称とした。尾坂遺跡の場合は、(YD5-02)である。

調査区(グリッド)については、第2図で示すようにハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内を国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)の日本平面直角座標IX系を使用し、吾妻郡吾妻町(現東吾妻町)大柏木の東部付近を基点(X=58000.00、Y=-97000.00)とした。その後、世界測地系に変更した。

この基点から国家座標に準じて西・北方向に座標を設定した。ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内は基点から西へ10km、北へ6kmの広範囲に所在する事から1km四方の大区画(地区と呼称)を西へ10区画、北へ6区画の計60区画を設定した。

この大区画の内部を100m四方の中区画(区と呼称)に区分し、南東角から南列を西に1区、2区、10区とし、次の列を11区～20区のように100区まで設定した。

この中区画の内部は4m四方の625個の小区画に細分した。この細分した区画は南東角を基点に西へはA～Yまでのアルファベット、北へは1～25までの数字を付与して各区画を区分した。すなわち、尾坂遺跡の所在する29地区53・54・62・63・64・65・72・73・74・75・76・82・83・84・85・86区の基点となる小区画は29地区62区A-1と呼称される事になる。

この小区画を基にして遺構図測量、遺物取り上げ、旧

石器時代等の試掘調査を実施する際の基準として使用した。

第3節 発掘調査の経過

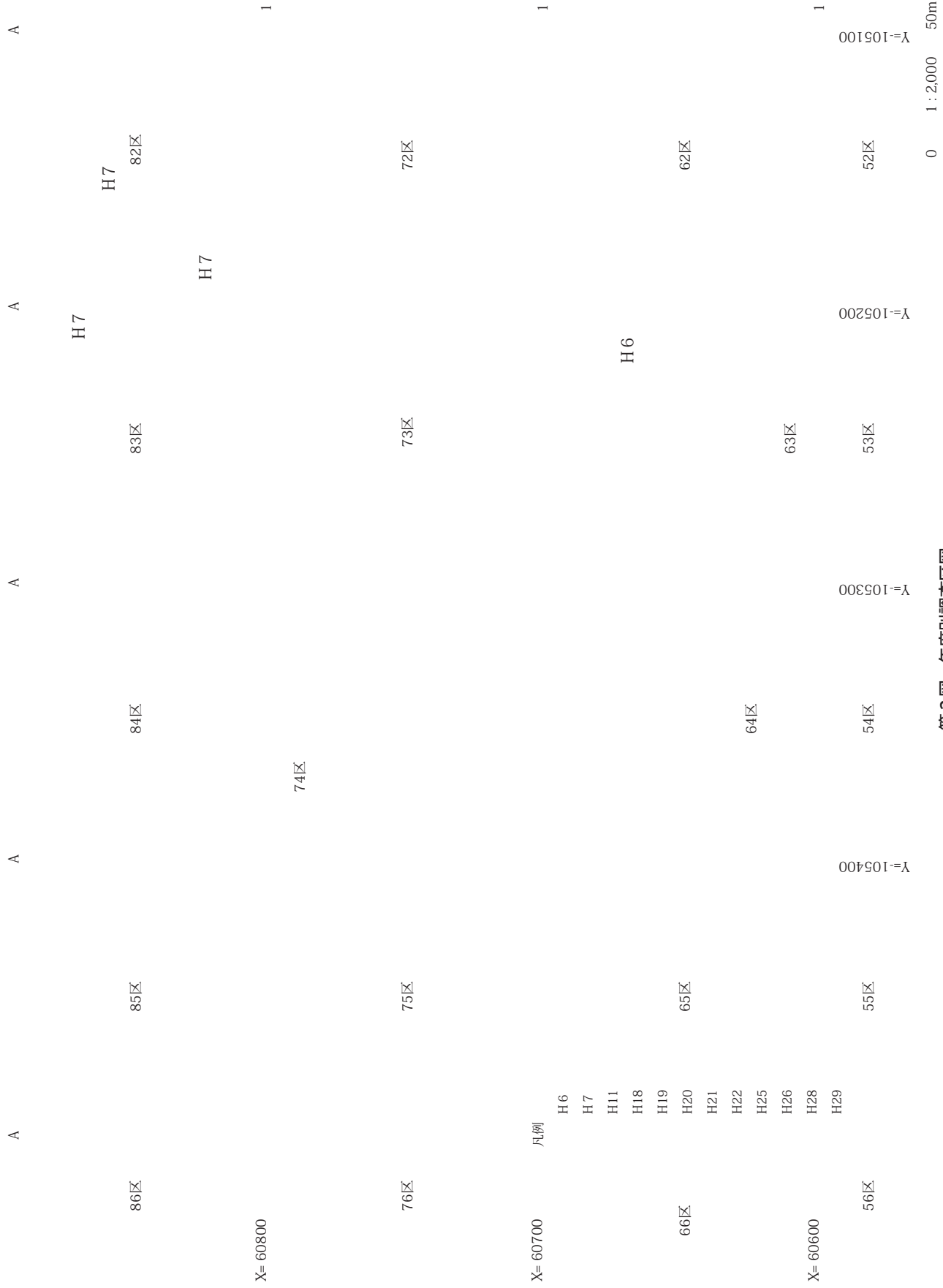
尾坂遺跡の発掘調査は工事工程の関係から、2か年にまたがるが継続する形ではない事から、先行して発掘調査する箇所の表土掘削を随時開始する事となった。そのため、その排出土については周辺の場合に一時盛り土保管場所として対応し、その後は発掘調査が終了した場所を随時置き場にした。また、発掘調査は基本的に以下の調査方法で行われた。

1. 掘削機(バックホー)による基本土層の第I層の天明泥流層の暗褐色土層の掘削を行う。
2. 第I層の中近世遺構確認・検出面、及び第III層の平安時代確認・検出面層、さらにその下位からの縄文時代遺構は安全に留意しながらの重機と人手を併用して遺構確認作業を行い、個々の調査を行う。(I・II・III面)
3. 遺構調査終了後、84区を中心に基本土層の第V層から下位の地層に対しての試掘を実施し、より古い時代の遺構確認作業を行った。(VI面)

検出した遺構については平面、土層観察断面等の測量、写真撮影による記録を作成したが、遺跡全体図や遺構個別図の測量は委託して作図を行った。

遺跡全景や遺構個別写真等の記録写真の撮影には中型と小型カメラを併用して、基本的に6×7版白黒と35mmのカラー・白黒(モノクロ)兼用デジタルカメラで行い、遺構全景の撮影にはモニタリングカメラ、ローリングタワーを場合によって併用し、各段階での全体写真の撮影にはラジコンヘリ(ドローン)を使用して、上空からの航空写真や高所からの俯瞰写真を撮影した。

各地区共に、すべての作業が終了後に埋め戻し作業を行い、工事側への区画の引き渡しをした。



第2図 年度別調査区図

第4節 整理の方法と経過

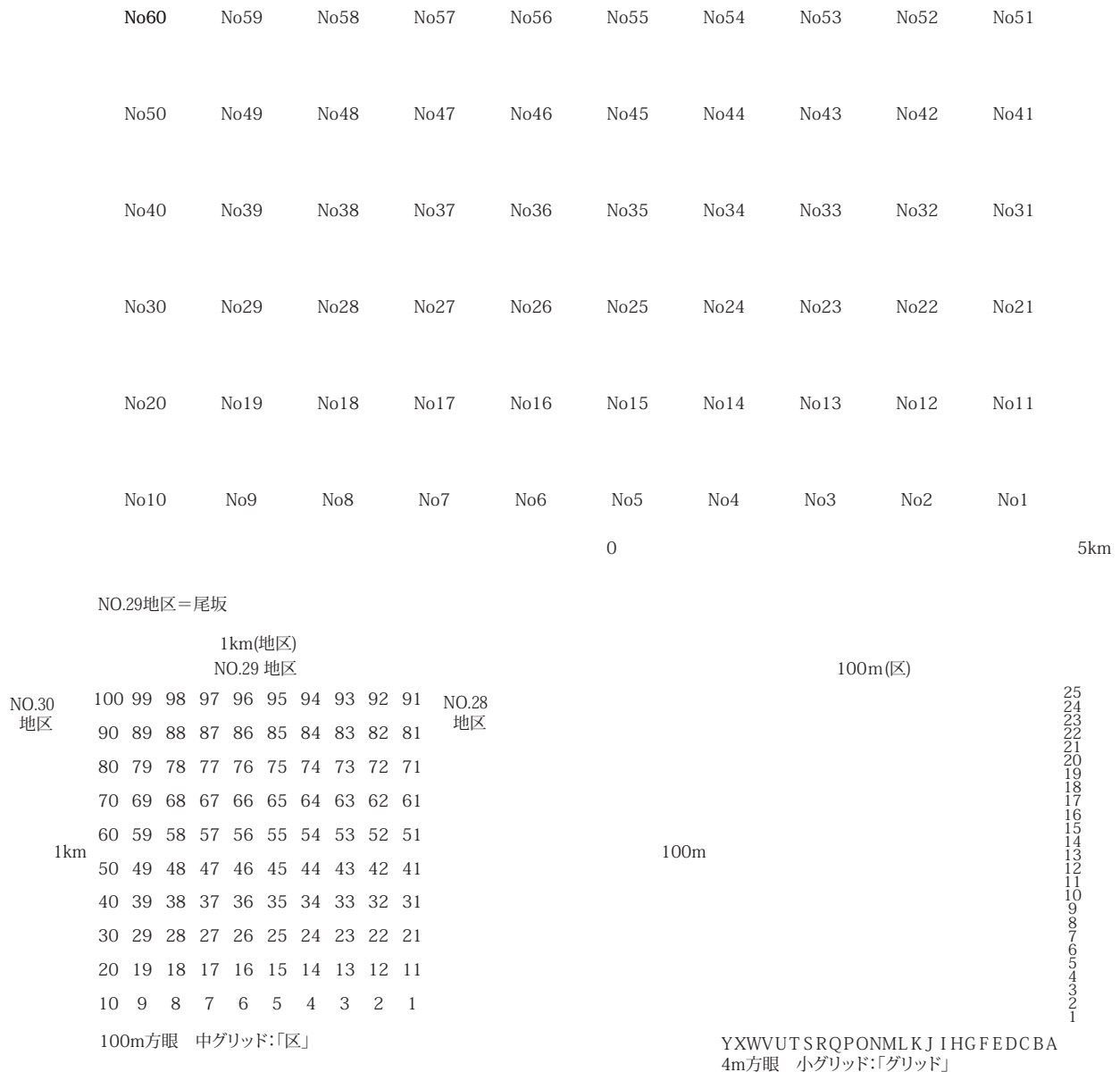
尾坂遺跡の整理作業は、前回の報告では平成25年の11月から平成26年の3月までの5か月、平成26年1月から3月までの3か月、平成26年4月から平成27年3月までの12か月、平成27年の5月から平成28年の3月までの11か月という、平成25・26・27年度の3つの年度に跨る変則的な延べ31か月の計画で実施され、『尾坂遺跡(2)』が刊行された。

今回の報告では、平成28年11月の1か月と、平成29年2月の1か月、平成29年4月から6月の3か月と、平成

29年12月の1か月を合わせた6か月分の発掘調査の成果を『尾坂遺跡(3)』として刊行をすることとなった。平成29年10月から平成30年1月までの4か月の期間で整理作業を実施した。

まず、土器や石器・石製品などの遺物については、外部発注による洗浄・注記などの基礎整理を既に行っていたために、洗浄・注記の有無の確認、取り上げ番号などのチェックなどを行った。

次に、遺構別・層位別・地点別の分類・区分けの後に接合・復元作業を開始し、実測個体の選び出しと実測・



第3図 調査区の設定

トレース作業を行った。さらに、図面類については原図全体の確認・台帳化と、使用原図の選び出しと鉛筆によるトレース素図とトレース図作成を実施した。また、出土した遺物の図面上での位置の確認などを行った。そして、仕上がりの確認とともに、レイアウトの作成、遺構や遺物、それに関連する資料の図版作成を行った。

写真関係では、現場で撮影したデジタル35ミリと6×7の個々の白黒写真について、出土状態など写真の種類などの確認、記録カード・台帳化を行った。特に、デジタルは保存用と活用用の2種類への振り分け編集作業を実施し、報告書刊行後の利用に備える準備をした。

遺物は選び出し個体の写真撮影から行った。これらの作業がほぼ終了した時点で、レイアウトの作成、遺物・遺構・写真図版の作成を開始した。

同時に、報文原稿については整理担当者を中心に執筆したが、一部については発掘調査担当者や各時代・各遺構・遺物を専門分野とする職員らの助言・協力を得た。

これらの作業をすべて行い、報告書作成の作業が終了し、印刷工程を経て刊行となった。

この整理作業にあたっては、測量した遺構図および撮影した写真は(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団資料管理マニュアルに従って基礎整理を実施した。

また、出土した遺物は土器と石器については発掘調査終了までの時点で外注で洗浄・注記を行い、今回の整理作業までハッ場ダム調査事務所で保管していたが、年度間の基礎整理の進捗状況の差異による手直し・追加が生じた。

なお、金属器・金属製品については整理作業時に図の作成、写真撮影が可能な状態になるように保存処理を行い、整理作業後は本部にて保管する予定である。

遺跡の整理作業の問題点としては、まず遺物の洗浄の際に鉄製品や遺物への漆などの付着物の有無を充分に確認・選別しておく必要がある。また注記に際して注記箇所の指定の問題がある。

尾坂遺跡発掘調査日誌抄録

平成28年	
10月17日(月)	表土掘削開始。
10月21日(金)	安全対策。
10月24日(月)	1 面目遺構確認。
11月1日(火)	土山整形、1 面目泥流除去作業、排水作業、空撮準備。
11月2日(水)	1 面目遺構精査、空撮。
11月7日(月)	2 面目確認用トレンチ掘削及び精査。
11月8日(火)	1 面目南西拡張部 表土掘削、遺構確認、遺構精査。
11月9日(水)	2 面目確認用トレンチ 写真撮影。
11月10日(木)	1・5 面目2m×2mグリッド内の耕作痕確認。
11月15日(火)	2 面目拡張部 確認用トレンチ 遺構確認作業。
11月18日(金)	調査終了。
平成29年	
4月4日(火)	プレハブ予定地の整地作業。
4月5日(水)	環境整備作業。
4月10日(月)	A区(2 面目)遺構確認、遺構精査。 B区北東(1 面目)表土掘削、遺構確認。 B区南東(2 面目)表土掘削。
4月12日(水)	B区北東(1 面目)遺構精査。
4月13日(木)	A区(2 面目)全景写真撮影。 B区南東(2 面目)遺構確認。
4月17日(月)	A区埋め戻し開始。 B区北東(1 面目)全景写真撮影。 D区範囲測量。
4月19日(水)	A区埋め戻し完了。
4月20日(木)	B区北東(2 面目)遺構確認、遺構精査。 D区環境整備作業。
4月21日(金)	B区南西(1 面目)表土掘削、遺構確認、遺構精査。
4月24日(月)	D区(1 面目)表土掘削。
4月26日(水)	D区南(1 面目)表土掘削。
4月28日(金)	B区南西(1 面目)空撮準備。
5月2日(火)	B区(2 面目)遺構確認。 D区(1 面目)遺構確認。
5月8日(月)	B区(2 面目)表土掘削。
5月12日(金)	D区(2 面目)トレンチ調査。
5月17日(水)	B区(2 面目)遺構精査。 D区(1 面目)埋め戻し、空撮。
5月18日(木)	D区(2 面目)表土掘削、遺構確認、遺構精査、埋め戻し。
5月19日(金)	B区(2 面目)写真撮影。
5月22日(月)	B区(2 面目)トレンチ調査。
5月23日(火)	B区埋め戻し。
5月29日(月)	B区(1 面目)表土掘削。
5月30日(火)	D区(2 面目)埋め戻し。
5月31日(水)	B区(1 面目)遺構確認。 D区(2 面目)埋め戻し完了。
6月6日(火)	B区北西(2 面目)表土掘削、トレンチ調査。
6月7日(水)	B区北西(2 面目)写真撮影。
6月8日(木)	B区北西(2 面目)埋め戻し。
6月9日(金)	B区北西(2 面目)埋め戻し完了。
11月27日(月)	保安林部分の環境整備、調査範囲測量。
11月28日(火)	調査範囲撮影、過年度調査範囲測量。
11月29日(水)	トレンチ掘削。
11月30日(木)	トレンチ精査、写真撮影。
12月1日(金)	埋め戻し、調査終了。

第2章 遺跡の環境

第1節 地理

吾妻郡長野原町は群馬県の西部、長野県との県境に位置する浅間山の北東に位置する。

行政区画としては、東は吾妻郡東吾妻町(旧吾妻町)、北は同郡中之条町(旧六合(くに)村)、北西は同郡草津町、西は同郡嬭恋(つまごい)村、南は長野県軽井沢町、南東は高崎市(旧倉渕(くらぶち)村)にそれぞれ接する。

周囲は標高1,000m～1,800m級の山々が連なり、南東部の高崎市との境に鼻曲(はなまがり：標高1,655m)と浅間隠(あさまかくし：標高1,756.7m)、東の東吾妻町との境に高間(たかま：標高1,341.7m)、西部に浅間隠・菅峰(すがみね：標高1,473.5m)・高間・笹罫(ささとや：標高1,756.7m)、北部に吾嬭(かづま：標高1,181.5m)・薬師(やくし：標高974.4m)等の山々が存在する。

河川では、吾妻郡嬭恋村大字田代と長野県との境界に位置する鳥居峠(とりいとうげ：1,362m)付近から流れ出す吾妻川が東流し、それに万座川や白砂川、それに熊川等の小河川が南流、あるいは北流して、それぞれ吾妻

川に合流する。

主な集落は吾妻川の河岸段丘上にある。吾妻川の谷は長野原地区付近ではその幅がやや広く、河岸に何段かの河岸段丘が発達しているが、川原湯地区より東では基盤の第三紀層を刻み込んで、風光明媚な吾妻溪谷を形成している。

本遺跡の所在する長野原地区は、周囲を山々に囲まれた東西に細長い地形を呈し、鳥居峠附近から流れ出す吾妻川の左右両岸に段丘が形成されているものの、山間地特有の河川の蛇行により主に右岸側のみが幅が狭くなっており、一部では溪谷を作り出している。本遺跡が立地する段丘は中位面から下位面にかけてであり、これらの面に関東ロームがほとんど堆積していない事から、吾妻川が離水して段丘面が形成された時期は完新世の時期と考えられる。この緩やかな傾斜の段丘やその上位の丘陵上に縄文時代から平安時代にかけての遺跡がいくつも存在しており、現在でも住宅地や水田、畑として利用されている。

参考文献
長野原町誌編纂委員会編 1976 『長野原町誌』上

尾坂遺跡

0

1km

第4図 段丘面分布図(国土地理院発行2.5万分の1地形図「長野原」を使用)

第2節 地形と地質

長野原町の地形・地質に大きな影響を与えたのは、現在も噴火活動を続けている浅間火山で、町域の北西部、長野県境に位置し、黒斑・仏岩・前掛山・釜山の4つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。約21,000年前の黒斑火山の噴火では、岩屑流と「応桑泥流」と呼ばれる泥流が発生している。この泥流堆積物は、当時の河床を数十mの厚さで埋めている。その後この堆積物によって吾妻川の浸食が進み、兩岸に最上位と上位の段丘面が形成されている。浅間山は、この後も多くの火山堆積物を堆積させているが、特に町域では浅間一草津黄色軽石(As-YPk、10,500～11,500年前)の堆積が顕著である。また、1783(天明3)年の前掛山の噴火により発生した火砕流は吾妻川に流れ込んで泥流となり、今も「天明泥流」として下位段丘や中位段丘を数m～数十mの厚さで覆っている。

平地は吾妻川に沿って僅かに分布しており、階段状の河岸段丘の上位にある。ここはこの地区の主な居住区であり、農業生産の中心地にもなっている。

この段丘は、吾妻川からの比高の差を基準に下位段丘・中位段丘・上位段丘・最上位段丘の4つに分類されている。各段丘面の現在の吾妻川からの平均的な比高は、下位段丘で約10～15m、中位段丘で約30m、上位段丘で約60～65m、最上位段丘で約80～90mとなっている。このうちの上位・最上位の段丘面は約21,000年前に噴出した応桑泥流堆積物を基盤とし、その上に重なる関東ローム層中には、約11,000年前に噴出したと考えられるAs-YPkが最上位面で約2m堆積している。

長野原地域では、集落の大部分が中位段丘面に存在する。長野原一本松遺跡の所在する一本松地区が上位段丘面に、尾坂遺跡の所在する尾坂地区が中位段丘面に、吾妻川左岸の川沿いの低い一部が下位段丘面に相当する。

第3節 歴史

この地域の歴史については、既に長野原町教育委員会の富田氏によって詳細な記述がなされており、それを参考に主として林地区を中心に記述する事とするが、各時代の主要な遺跡については周辺地区をも含めて説明する事とする。

長野原町教育委員会が八ッ場ダム建設計画に先行し

て、1987(昭和62)年から3か年にわたり実施した遺跡分布調査において、183か所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。これに石造物などの指定文化財や名勝・天然記念物などを含めると文化財総数は199を数える。1994(平成6)年以降に八ッ場ダム建設に係わる発掘調査の進展に伴い包蔵地はさらに増えている。

旧石器時代 現在までにこの時期の遺跡は確認されていない。ただし、遺構外ながら柳沢城跡で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩の削器が1点出土している。長野原一本松遺跡でも尖頭器が出土している。

縄文時代 縄文時代になると遺跡数は増大する。この時期の遺跡の主なものとして本遺跡以外に、石畑遺跡、坪井遺跡、長畝Ⅱ遺跡、暮坪遺跡、立馬Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、西久保Ⅰ遺跡、幸神遺跡、勘場木遺跡、向原遺跡、滝原Ⅲ遺跡等があげられる。草創期の遺跡として表裏縄文土器が出土した石畑岩陰遺跡が著名であるが、横壁勝沼遺跡からも表採ながら草創期の槍先形尖頭器が出土している。早期は立馬遺跡で初頭の撚糸文期の1棟、前期では坪井遺跡で初頭の花積下層式期の1棟、暮坪遺跡で前期前葉の二ツ木式期の2棟、前期中葉～後葉が楡木Ⅱ遺跡で10棟、中期は立馬Ⅱ遺跡で初頭から前半の五領ヶ台式～阿玉台式の9棟、幸神遺跡で完形の阿玉台式土器を埋設した土坑1基が検出されている。中期後半が最も多く横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡では共に250棟以上の大規模な集落を形成していた事が判明している。この他に坪井遺跡の19棟、幸神遺跡2棟、勘場木遺跡1棟、長畝Ⅱ遺跡2棟が検出されている。後期に至っても横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡でも引き続き集落が形成されており、他に向原遺跡で5棟検出されている。晩期は川原湯勝沼遺跡で2個の土器を埋襲した土坑が検出され、再埋葬の可能性が指摘されている。

弥生時代 この時期の遺跡は極めて希薄であり、前期は横壁中村遺跡で檜王式の甕を埋設した土坑が検出されて、再埋葬の可能性が指摘され、楡木Ⅲ遺跡で土器が集中して出土している。中期後半は立馬Ⅰ遺跡で土器棺墓が1基と竪穴住居が2棟、後期の樽式は二社平遺跡で破片が多数出土している。

古墳時代 1938(昭和13)年に編纂された『上毛古墳総覧』によれば、長野原町には2基の古墳が存在するとされて

おり、大津の鉄塚と与喜屋の五輪塚が該当するが、現在までに発掘調査によって確認されたものはひとつも無く、現時点では東吾妻町の岩島地区が西限である。集落関係では林宮原Ⅱ遺跡で1棟、下原遺跡での1棟が2例目であり、遺物は1976（昭和51）年に刊行された『草津温泉誌』第壹号にも長野原町大津の金丸製材所の西地点で出土した壺型土器と高環が掲載されており、これが吾妻川流域の最奥の古墳時代の資料として紹介されている。これらからみて、遺跡の数が極端に少なく、それぞれの規模も小さいことから古墳が構築される土台がなかった可能性が高いと言えよう。

奈良・平安時代 10世紀ごろに編集された『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』によれば、古代律令制での吾妻（阿加豆末：あがつま）郡は、大田（おおた、吾妻町太田地区から吾妻川上流の三島までの右岸一帯）郷、伊参（いさま、中之条町から原町にかけての吾妻川左岸一帯）郷、長田（ながた：中之条町北東部から高山村にかけての名久田川流域）郷の三つの郷に区分され、その郡衙（役所）は原町の大宮巖鼓神社周辺と考えられているが、近年の発掘調査からは疑問視されてきている。一方、長野原町のある西吾妻地区には郷が存在しないとされている。確かに奈良時代の遺構・遺物は極めて希薄で、分布調査でも僅かに確認されているのみである。

だが、平安時代になると遺跡数は増加する。本遺跡以外では、主な遺跡としては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林宮原遺跡、向原遺跡、長畝Ⅰ遺跡、坪井遺跡、花畑遺跡、下原遺跡、川原湯勝沼遺跡が挙げられる。各遺跡での竪穴住居の検出数は数棟と少ないものの、楡木Ⅱ遺跡では9世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居が38軒もまとまって検出されており、「三家」などと書かれた墨書土器の存在から、高崎市山名町にある山ノ上碑に記載された「佐野三家」との関連を強く想定させる。さらに、朝廷の直轄地である「みやけ・ミヤケ・屯倉・官家」との関連をも想定される。また、西吾妻地区でも最大規模の竪穴住居の数は、たとえ同時存在ではないにしても、存続期間が9世紀後半から10世紀前半の約百年と短い期間であることから、古代の律令制における地方行政の最も下位の単位である郷に近い形態の集落の存在が推定され、重要な遺跡である。また、町内から瓦塔の破片が発見されており、町重要文化財に指定となっている

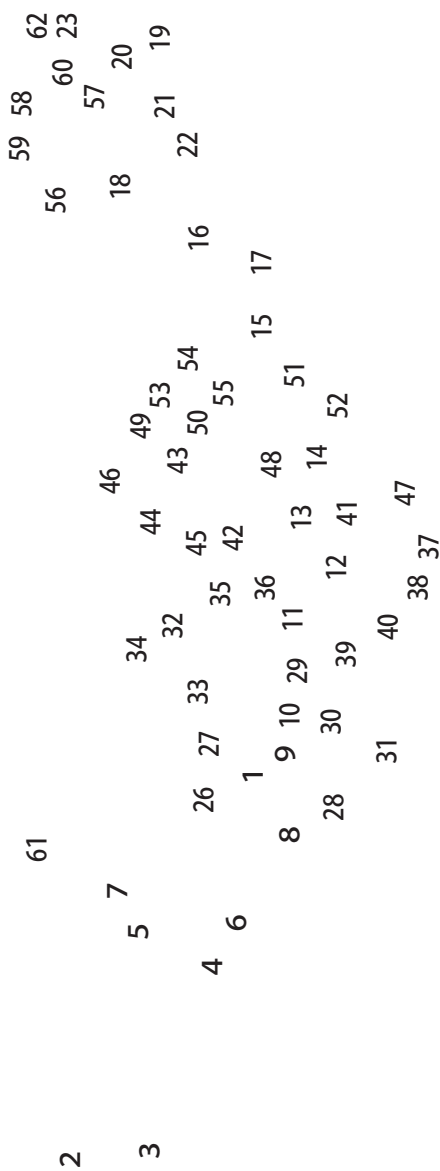
が、詳細な出土地は不明である。

中世 この時代の西吾妻地区の様子は、吾妻氏の拠点である東吾妻地区に比べて不明な点が多いが、『吾妻鏡』によれば、1241（仁治2）年には三原庄が存在したとされ、信濃源氏の末裔とされる海野氏とその一族の下屋・鎌原・西窪・羽尾氏らの支配下にあったとされている。後の戦国期には齋藤氏や真田氏らが活躍したと記されている。特に、林の地については、1563（永禄6）年の9月の長野原城の戦いの際に、齋藤氏らが王城山から林の神社（現在の王城）を拠点にして、合戦の地となった事が『加沢記』等にも記載されている。羽尾氏から1566（永禄9）年の御山城攻略に功績のあった湯本氏も20貫文を所領している。その後は、齋藤氏が滅亡すると共に、武田氏による湯本氏らへの支配が強化されるが、武田氏やその後の北条氏の滅亡後、真田氏が支配する事となる。この時期の資料としては柳沢城や丸岩城などの城館跡などが中心であったが、近年の発掘調査により掘立柱建物などの屋敷等を検出する遺跡が増えつつある。主な遺跡としては、横壁中村遺跡、二反沢遺跡、下原遺跡等が挙げられる。下原遺跡では中世の畑跡や建物跡が検出されている。二反沢遺跡からは中世の区画跡の他、羽口、鉄滓、椀状滓等の製鉄関連遺物が検出されている。

近世 沼田真田氏による1662（寛文2）年に断行した検地などにより、1681（天和元）年に真田信直の改易となり、この地域の大部分は幕府領や旗本領のいわゆる天領となり、明治維新までその体制が続き、明治以後に林村から1889（明治22）年の1町6村による町村合併により現在の長野原町となった。村高は「寛文郷帳」では125石うち田方14石・畑方111石、「元禄郷帳」では195石、「天保郷帳」と「旧高旧領」では202石である。1857（安政4）年の人別改帳では、戸数73・人数322・馬16と記されている。なお、近世の遺跡の大部分が、1783（天明3）年の浅間山の噴火に伴い噴出した浅間A軽石と泥流堆積物で埋没したものである。主な遺跡としては、東宮遺跡、下湯原遺跡、石川原遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁中村遺跡、下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡、久々戸遺跡、尾坂遺跡等が挙げられる。特に、久々戸遺跡の6次調査では、江戸時代の街道である「草津道」が検出されている。小林屋敷遺跡からは地区の豪農であった小林家の屋敷の一部が検出されており、文献との照合もなされている。尾坂遺跡や東宮遺跡

25

24



第5図 周辺遺跡(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

第2章 遺跡の環境

表1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	尾坂遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安・中世・近世	天明三年泥流下の畑・建物。中世の掘立柱建物。縄文時代の住居、土坑。弥生時代の再葬墓、土坑。平安時代の住居、土坑等。	平6・7・11・18・19・20・21～23・25・26・28・29年度事業団調査。平23・26に長野原草津口駅舎整備に伴う調査として一部調査。	②・④⑦・⑤①・本報告
2	小林家屋敷跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の屋敷、礎石建物2、土蔵1、石垣等。分限者小林助左右衛門屋敷の一部。	平14年度町教委調査	④
3	旧新井村跡	長野原町与喜屋	近世	昭和55年、自衛隊による町民グラウンド造成中に泥流で埋没した屋敷が発見された。日待供養塔、石臼、「長野原町誌」上巻農具などが出土。		②
4	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安	縄文時代中期後半～後期の住居3棟・敷石住居2棟、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居10棟を検出。	平5年度町教委調査	③
5	町遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑。	平23～25年度事業団調査	④
6	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。	平23年度事業団調査	③
7	嶋木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、中・近世の陶磁器片。	平16年度町教委調査	⑤
8	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物、縄文時代晩期の土器片。	平7・9・10・11・15・26～28年度事業団調査	③・④・⑤①・⑤①
9	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	天明三年泥流下の畑。縄文時代の土坑等。	平21・23年度事業団調査	③
10	西久保Ⅴ遺跡	長野原町横壁	縄文・古墳・中世・近世	縄文時代中期・後期から古墳時代前期の遺物検出。天明三年泥流下の水田。	平28・29年度事業団調査	⑤①
11	中棚Ⅱ遺跡	長野原町林	平安・中世・近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑等。	平11～13・15・28・29年度事業団調査	③・④・⑤①
12	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生・平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度事業団調査	③・⑤・⑦・⑩・⑭・⑰・⑱・⑳・㉓・㉔・㉕・㉖・㉗・㉘・㉙・㉚・㉛・㉜・㉝・㉞・㉟・㊱・㊲・㊳・㊴・㊵・㊶・㊷・㊸・㊹・㊺・㊻・㊼・㊽・㊾・㊿
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年泥流下の畑、中世の畑、古墳時代の住居、弥生時代の土器片等。	平12・15・16・29年度事業団調査	③・⑫
14	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	天明三年泥流下の畑。江戸・中世の建物。平安時代の住居、陥し穴。縄文時代の掘立柱建物。	平25・26・28・29年度事業団調査	②・⑤①
15	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居、天明三年泥流下の畑。	平15・16・28年度事業団調査	②・⑥・⑲・⑳・㉓・㉔・㉕・㉖・㉗・㉘・㉙・㉚・㉛・㉜・㉝・㉞・㉟・㊱・㊲・㊳・㊴・㊵・㊶・㊷・㊸・㊹・㊺・㊻・㊼・㊽・㊾・㊿
16	石川原遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	天明三年泥流下の畑。縄文時代中期の住居、列石、配石。平安時代の住居、陥し穴。近世の畑。	平20・25～29年度事業団調査	⑤①・⑤①
17	川原湯中原Ⅲ遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	縄文時代の竪穴住居、縄文時代と平安時代から近世にかけての土坑。	平28年度事業団調査	⑤①
18	西宮遺跡	長野原町川原畑	平安・近世	天明三年泥流下の建物複数、酒蔵、道、石垣、井戸、畑等。	平20・26～29年度事業団調査	⑤①・⑤①
19	東宮遺跡	長野原町川原畑	近世	天明三年泥流下の屋敷。大型の建物が良好な状態で検出、土台、大引、床板等多くの建築材が残る。また、下駄や団扇、石臼等の当時の道具類も多く出土。	平7・9・19～21・26～29年度事業団調査	②・③⑥・③⑧・⑤①・⑤①
20	三ツ堂岩陰遺跡	長野原町川原畑	江戸	江戸時代中期以前の墓地跡。	平28年度事業団調査	⑤①
21	西ノ上遺跡	長野原町川原湯	近世	天明三年泥流下の畑。平安時代の陥し穴、弥生時代の土坑等。	平14・27・29年度事業団調査	④・⑤①
22	下湯原遺跡	長野原町川原湯	縄文・弥生・平安・中世・近世	縄文時代中期の土坑。平安時代の住居。天明三年泥流下の畑・道。	平27～29年度事業団調査	⑤①・⑤①
23	石畑遺跡	長野原町川原畑	縄文	天明三年泥流下の畑。	平9・10・29年度事業団調査	②
24	上郷西遺跡	東吾妻町	平安・近世	弥生時代前期の土坑。平安時代の住居。	平19年度事業団調査	②⑤
25	上郷岡原遺跡	東吾妻町	縄文・近世	天明三年泥流下の畑、水田、礎石建物等。近世の墓坑。平安時代の住居、縄文時代の住居、土坑。	平14・15・17～19年度事業団調査	①⑥・②①・③①
26	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大型の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17・19・20年度事業団調査	①・①⑤・①⑨・②④・②⑧・④①・④②
27	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平8・9・14・17・18年度事業団調査	①⑦
28	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土居などを検出、常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度町教委調査	⑥⑥
29	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出。中・近世の礎石建物。	平6・10・12・29年度調査	②
30	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
31	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
32	榎木Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代の土坑、散布地。	平10・21年度事業団調査	③⑨
33	榎木Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居。	平11～13・16・17年度事業団調査	①⑧・②⑦
34	榎木Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度事業団調査	②
35	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡(旧大乘院堂跡)、近世水路、畑。	平12年度事業団調査	⑨
36	中棚Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・平安・中世・近世	縄文時代早期の遺物、平安時代の住居。	平23年度町教委、平29年度事業団調査	⑥③
37	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土。		
38	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安・近世	平安時代の散布地。		
39	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑等。	平10・13・18年度事業団調査	②・①⑦
40	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文～平安時代散布地。		
41	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、槍先形尖頭器出土。	平6・7年度事業団調査	②
42	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居1、平安時代の住居6、土坑6。	平15・20年度町教委、平24・27年度事業団調査	町教委2004・④⑥・⑤①・⑤③
43	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代前期初頭の住居、中期の住居。平安時代の住居、陥し穴等。	平15年度町教委、平24年度事業団調査	

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
44	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団、平23年度町教委調査	⑥
45	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	平安時代の住居、鍛冶遺構、陥し穴群。	平23年度町教委、平25・27年度事業団調査	⑤⑥
46	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15・21年度事業団、平20・24年度町教委調査	⑦・③⑧・⑥②
47	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代前期～後期住居、配石等。中・近世の掘立柱建物。	平15・20・21年度町教委、平19～21年度事業団調査	⑬・⑤⑥・⑥④
48	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、晩期の土器片。弥生時代中期の住居、土坑。中・近世の掘立柱建物。	平15・20・21年度町教委、平20・21年度事業団調査	⑬・⑤⑦・⑥⑤
49	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	②
50	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9・20・21年度事業団調査	⑮
51	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10・20・21年度事業団調査	⑮
52	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	縄文時代早期～後期の包含層。中・近世の掘立柱建物。内耳鍋、古瀬戸等出土。江戸時代の礎石建物。	平20・21年度事業団調査	⑮
53	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期～晩期の住居。弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14・17年度事業団調査	⑪
54	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居9棟、中期後半の住居1棟。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度事業団調査	⑧
55	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	⑮
56	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代中期の集落、平安時代の住居、陥し穴。	平18・19・28年度事業団調査	⑮・④⑨・⑤①
57	上ノ平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文、平安時代の散布地。		
58	三平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・弥生・平安	縄文時代早期～前期の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の陥し穴。	平16・17・24・25年度事業団、平20年度町教委調査	⑬・⑤⑥
59	三平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代早期～前期の包含層、掘立柱建物等。	平16年度事業団調査	⑬
60	二社平遺跡	長野原町川原畑	近世	天明三年泥流下の畑。	平28・29年度事業団調査	⑤①
61	居家以岩陰遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・古墳・近世・近代	縄文時代早期～晩期。	平26～29年度國學院大學考古学研究室調査	⑥⑧
62	石畑Ⅰ岩陰遺跡	長野原町川原畑	縄文・中世・近世	縄文時代前期～中世の遺物。天明三年泥流下の畑。	平29年度事業団調査	⑥⑦

※第5図上の●は天明泥流下遺構検出遺跡

参考文献

- ① 長野原一本松遺跡(1) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第287集 (以下 (財)群埋文○集) 2002
- ② ハッ場ダム発掘調査集成(1)東宮・石畑・川原湯勝沼・横壁勝沼・西久保Ⅰ・山根Ⅲ・下田・花畑・楡木Ⅲ・尾坂 (財)群埋文303集 2003
- ③ 久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原・横壁中村遺跡 (財)群埋文319集 2003
- ④ 久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上・上郷A遺跡 (財)群埋文349集 2004
- ⑤ 横壁中村遺跡(2) (財)群埋文355集 2005
- ⑥ 川原湯勝沼遺跡(2) (財)群埋文356集 2005
- ⑦ 横壁中村遺跡(3) (財)群埋文368集 2006
- ⑧ 立馬Ⅱ遺跡 (財)群埋文375集 2006
- ⑨ 上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡 (財)群埋文379集 2006
- ⑩ 横壁中村遺跡(4) (財)群埋文381集 2006
- ⑪ 立馬Ⅰ遺跡 (財)群埋文388集 2006
- ⑫ 下原遺跡Ⅱ (財)群埋文389集 2007
- ⑬ 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡 (財)群埋文401集 2007
- ⑭ 横壁中村遺跡(5) (財)群埋文406集 2007
- ⑮ 長野原一本松遺跡(2) (財)群埋文408集 2007
- ⑯ 上郷岡原遺跡(1) (財)群埋文410集 2007
- ⑰ 山根Ⅲ遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡 (財)群埋文429集 2008
- ⑱ 楡木Ⅱ遺跡(1) (財)群埋文432集 2008
- ⑲ 長野原一本松遺跡(3) (財)群埋文433集 2008
- ⑳ 横壁中村遺跡(6) (財)群埋文436集 2008
- ㉑ 上郷岡原遺跡(2) (財)群埋文438集 2008
- ㉒ 横壁中村遺跡(7) (財)群埋文439集 2008
- ㉓ 上ノ平Ⅰ遺跡(1) (財)群埋文440集 2008
- ㉔ 長野原一本松遺跡(4) (財)群埋文441集 2008
- ㉕ 上郷西遺跡 (財)群埋文448集 2008
- ㉖ 立馬Ⅲ遺跡 (財)群埋文457集 2009
- ㉗ 楡木Ⅱ遺跡(2) (財)群埋文458集 2009
- ㉘ 長野原一本松遺跡(5) (財)群埋文461集 2009
- ㉙ 横壁中村遺跡(8) (財)群埋文462集 2009
- ㉚ 横壁中村遺跡(9) (財)群埋文466集 2009
- ㉛ 上郷岡原遺跡(3) (財)群埋文471集 2009
- ㉜ 上郷A遺跡(2) (財)群埋文473集 2009
- ㉝ 横壁中村遺跡(10) (財)群埋文488集 2010
- ㉞ 横壁中村遺跡(11) (財)群埋文492集 2010
- ㉟ 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 (財)群埋文502集 2010
- ㊱ 東宮遺跡(1) (財)群埋文514集 2011
- ㊲ 横壁遺跡(12) (財)群埋文526集 2012
- ㊳ 東宮遺跡(2) (財)群埋文536集 2012
- ㊴ 楡木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ(2)遺跡・西久保Ⅳ遺跡 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第549集(以下 (公財)群埋文○集) 2012
- ㊵ 長野原一本松遺跡(6) (公財)群埋文554集 2013
- ㊶ 横壁中村遺跡(13) (公財)群埋文559集 2013
- ㊷ 長野原一本松遺跡(7) (公財)群埋文578集 2014
- ㊸ 長野原城跡・林中原Ⅰ遺跡 (公財)群埋文586集 2014
- ㊹ 横壁中村遺跡(14) (公財)群埋文587集 2014
- ㊺ 町遺跡 (公財)群埋文593集 2014
- ㊻ 上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡 (公財)群埋文604集 2016
- ㊼ 尾坂遺跡 社会資本整備総合交付金事業 長野原草津口駅舎整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (公財)群埋文546集 2012
- ㊽ 林中原Ⅱ遺跡(2) (公財)群埋文617集 2016
- ㊾ 上ノ平Ⅰ遺跡(2) (公財)群埋文623集 2017
- ㊿ 年報35 (公財)群埋文 2016
- ① 年報36 (公財)群埋文 2017
- ② 旧新井村跡 長野原町埋蔵文化財調査報告第1集(以下 長野原第○集) 長野原町の遺跡 一町内遺跡詳細分布調査報告書ー長野原町教育委員会(以下 町教委) 1990
- ③ 向原遺跡 長野原第5集 向原遺跡 町教委 1996
- ④ 小林家屋敷跡 長野原第12集 小林家屋敷跡 町教委 2005
- ⑤ 嶋木Ⅰ遺跡 長野原第15集 町内遺跡Ⅴ 町教委 2005
- ⑥ 林中原Ⅰ遺跡 長野原第20集 町教委 2010
- ⑦ 林中原Ⅱ遺跡 長野原第21集 町内遺跡Ⅹ 町教委 2011
- ⑧ 林宮原遺跡Ⅶ 長野原第23集 町教委 2011
- ⑨ 三平Ⅰ遺跡 長野原第26集 町教委 2013
- ⑩ 上原Ⅱ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑪ 上原Ⅲ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑫ 上原Ⅳ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑬ 中棚Ⅰ遺跡 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑭ 林中原Ⅰ遺跡Ⅺ 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑮ 林中原Ⅱ遺跡Ⅹ 長野原第30集 林地区遺跡群 町教委 2017
- ⑯ 長野原町『長野原町誌』上巻 1976
- ⑰ 長野原町『長野原町の自然』 1988
- ⑱ 居家以岩陰遺跡 國學院大學文学部考古学実習報告第53集 2014

からも屋敷が検出されている。林村の被害は、泥押し90石・流死者18・飢人25。生産基盤としては、畑を中心に検出されており、その中に麻の占める割合が高い点、そ

れに対して水田の比率が低い等があげられる。

また、下原遺跡などで1742(寛保2)年の洪水の際に生じた土砂崩れで埋没したと考えられる畑跡も検出され

第2章 遺跡の環境

るなど、さらに古い洪水の存在も推定される。

参考文献

(概説書・図録類) 尾崎喜左雄監修 1987 『日本歴史地名大系10 群馬県の地名』 平凡社、日本地名大辞典編纂委員会編 1988 『日本地名大辞典』10 群馬県 角川書店、中之条町歴史民俗資料館 2003 『常設展示解説図録』 (県町村史誌) 群馬県 1938 『上毛古墳総覧』 群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告第5号、長野原町誌編纂委員会編 1976 『長野原町誌』上、群馬県史編さん委員会編 1990 『群馬県史』 通史編1、1981 『群馬県史』 資料編3 (発掘調査報告書) 群馬県教育委員会編 1988 群馬県の中世城館跡、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995～2007 年報：14～26、1998 長野原久々戸遺跡、2002 長野原一本松遺跡(1)、2002 八ッ場ダム発掘調査集成、2003 久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡、2004 久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡、2005 横壁中村遺跡(2)、2005 川原湯勝沼遺跡(2)、2006 横壁中村遺跡(3)、2006 立馬Ⅱ遺跡、2006 上郷B・廣石A・二反沢遺跡、2006 横壁中村遺跡(4)、2006 立馬Ⅰ遺跡、2007 下原遺跡Ⅱ、2007 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、2007 横壁中村遺跡(5)、2007 長野原一本松遺跡(2)、1995～2007 遺跡は今：1～15 長野原町教育委員会 1996 向原遺跡、2000 坪井遺跡Ⅱ、2001 暮坪遺跡、2004 林宮原Ⅱ遺跡、2005 小林屋敷遺跡、2016 林中原Ⅱ遺跡(2)、2010 林中原Ⅰ遺跡、2011 町内遺跡X、2011 林宮原遺跡Ⅷ、2013 町内遺跡Ⅻ、2013 三平Ⅰ遺跡、2013 町内遺跡、2014 町内遺跡、2014 滝原Ⅳ遺跡、2017 林地区遺跡群

B区4号壁

- I 天明泥流堆積物
- II As-A
- III 黒褐色土10YR3/1 天明泥流下畑作土。白色粒を若干含む。
- IV 黒褐色土10YR3/1 天明泥流下畑耕作土。白色粒、黄褐色粒、1～5cm大の亜角礫を少量含む。
- V 黒褐色土10YR2/2 褐色ブロック土、白色粒、黄褐色粒を多量に含む。下位ほど明るく、暗褐色に近くなっていく。
- VI 暗褐色土10YR3/4 黄褐色粒、黒色ブロック土を少量含む。下位に鉄分沈着有。
- VII 明黄褐色土10YR6/6 砂質土。黄褐色粒を若干含む。
- VII' 黄褐色土10YR5/8 砂質土。黄褐色粒を少量含む。
- VII'' 明黄褐色土10YR6/6 砂質土。白色粒を若干含む。
- VII''' 黄褐色土10YR5/6 砂質土。
- VIII 灰黄褐色土10YR4/2 砂質土。黒色土が若干混じる。
- IX 黄褐色土10YR5/8 砂質土。白色軽石を少量含む。

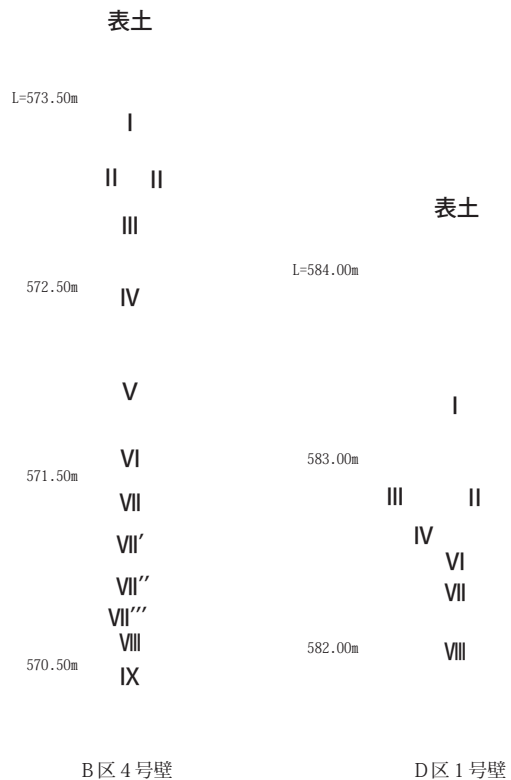
D区1号壁

- I 天明泥流堆積物
- II As-A
- III 黒褐色土10YR3/1 天明泥流下畑作土。白色粒を若干含む。
- IV 黒褐色土10YR3/1 天明泥流下畑耕作土。白色粒、黄褐色粒、1～5cm大の亜角礫を少量含む。
- VI 暗褐色土10YR3/3 白色粒、黄褐色粒を多量、炭化物粒、1～10cm大の亜角礫を少量含む。
- VII 黄褐色土10YR5/8 シルト質土。白色粒、黄褐色粒、黒色ブロック土を多量、1～20cm大の亜角礫、炭化物粒を少量含む。
- VIII 明黄褐色土10YR6/8 砂質土。礫層。1～50cm大の亜円礫を大量、白色粒、黄褐色粒、黒色ブロック土を若干含む。

第4節 基本土層

尾坂遺跡は吾妻川左岸に中位段丘面に立地する。基本土層は、基本的には長野原町の吾妻川左岸に位置する遺跡と同様であるが、同地区内、遺跡内でも場所によって若干の違いがある。

- I層 現表土 畑の耕作土で、層厚20～30cm。
- II層 暗褐色土 天明泥流の堆積層で、層厚は2m。
- III層 浅間A軽石(As-A)層。
- IV層 粘質黒褐色土 天明畑の耕作土。白色軽石を含むが、浅間粕川軽石(As-Kk)の可能性。
- V層 暗褐色土
- VI層 明黄褐色土
- VII層 褐色土
- VIII層 黄褐色土
- IX層 黄褐色ローム層
- X層 鈍い黄褐色土



第6図 基本土層

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

本遺跡の発掘調査の対象地全域は、その大部分が中位段丘面であり、南側の吾妻川に沿った低い部分が下位河岸段丘面である。ここには離水以後の土壌が堆積しており、その中には年代の鍵層となる軽石や火山灰も堆積しているが、大部分が純層ではなく攪拌された状態で確認されるために、文化層の把握がやや難しい状態である。

本遺跡での発掘調査による調査面は3面(一部4面)である。確認できた遺構は、古い順に縄文時代、平安時代、及び中近世、江戸時代に属するものである。

遺物は縄文時代、弥生時代、平安時代、及び中近世、江戸時代のものである。調査面積は約10,000㎡であるが、部分的に複数の文化面を有する地域もあるので、それに対応して数値が増す事となる。

本章では時期の古い順にそれぞれ遺構の種類別に項目を設定し、個々の遺構について説明を加えた。そのため、遺構に付けられた番号順になっていない場合もある。次に、各時代毎の遺構・遺物にこれまでの調査内容を含めて、その特徴をみていく事とする。

縄文時代は基本土層のⅣ層からⅤ層にかけて、前回の調査では竪穴住居、集石などの遺構が多数検出されている。今回は遺物としては、中期後半の加曾利E式の土器が出土している。

平安時代では、南側への傾斜する地形のために住居の南壁の残りが悪いものの、基本土層のⅡ層からⅢ層にかけて、何棟もの竪穴住居などが検出されているが、今回の調査では、平安時代の明確な遺構は検出されていない。

また、浅間Bテフラと呼ばれる1108(天仁元)年浅間山給源の軽石や火山灰は明確ではないものの、第Ⅳ層の中に混じり込んでいる。さらに、浅間一粕川軽石と呼ばれる1128(大治3)年に降り積もった火山灰が、埋没途中の陥し穴の堆積層中で検出されている事から、少なくとも平安時代の陥し穴が何基かは存在したと考えられる。

さらに、中世以降から近世にかけては、基本土層の第Ⅳ層上部から掘立柱建物が何棟も築造されていた。

出土遺物は古いものでは僅かであるが中国からの貿易陶磁である青磁があり、他に播鉢や碗などの陶磁器や内

耳などの軟質陶器などの破片がいくつも出土しており、その大部分は16世紀以降のものである。

第1面は、天明の泥流に覆われた畑や平坦面、道、石垣などを検出している。

第2節 江戸時代の遺構と遺物

本遺跡では、天明3年(1783)に浅間山の噴火により発生した泥流によって埋没した当時の生活面を検出した。第1面の文化層である。

この2m以上の厚さで覆い被さった泥流の下から検出されたのは、畑とそれに伴う道や石垣などである。

なお、土坑やピットと異なり、広い範囲に広がる畑や、長く伸びた道、石垣などについては、該当するグリッドが数多くなるために、図を示すだけで省略することとする。

また、遺物については、陶磁器や銭貨、煙管や木材片、種子などが出土した。

(1) 遺構

1 畑

前回の報告にあるように、本遺跡での発掘調査対象の約4万㎡の台地は、母屋や納屋、倉などの立ち並ぶ集落景観を見せる、当時の人々の日々の生活を営む居住空間としての場と、いわゆる「前栽畑」と規格化された生産作物の栽培のための耕作経営を行うための、生産拠点の場とに大別されると考えられる。特に、1号建物を中心とした周辺では、畝サクの切り替えや部分的な利用形態の違いなど、小単位で不均質な耕作形態が確認できる。他方、生産拠点となるような耕作地では、道や河道の存在で囲われた範囲は、まず、中央を南北に2分するような区割りが行われ、主に南北に細長く短冊状に区分けして開削された形態が見て取れる。これらは、天明泥流被災後90年ほどが経過した明治5～6(1872～1873)年の壬申地引絵図にもその様相がほぼ類似して示されている。

後者の耕作地としての畑は、これまでにある程度のまとまりをもつ小単位が集まり、規格を持った集合で畑が構成されていることが分かっている(関俊明 2003「天明三年泥流畑の耕作状況」『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』)。それらは、「ツカ」と呼ばれる当地域の特徴的な民俗事例とも密接に対応している。それらを畑遺構の中で、「単位畑」と「中単位」で構成されているという造語を用いて、解釈して遺構番号を付すなどの整理作業を行った。

A区(第7図、P.L. 1)

ここでは、OS 6-1号畑、OS 6-2号畑、OS 6-4号畑、OS13-2号畑、OS40号畑が存在する。このうち平坦面が検出されたのはOS 6-2号畑の1か所だけである。

B区(第8図、P.L. 3～9)

ここでは、OS26-4・5・7～13号畑とOS27-7号畑が検出されている。このうち平坦面が検出されたのはOS26-8～10号畑とOS26-12・13号畑の5か所である。いずれも遺跡の東南の台地の縁辺部に位置することから、泥流による当時の地面が削り取られるなど、OS26-5号畑やOS26-13号畑での遺構の残りが非常に悪い。

OS26号畑は、4号道の段下に位置し、畝サクの方向から、2ないしは3筆の区画に分かれるものと考えられるが、泥流により畑の表面が荒らされていることと、調査部分が極めて僅かであることで、詳細については不明である。

OS27号畑は、南に傾斜する畑地景観の全体を見渡すと、およそ3段の段丘面と捉えるとその中段位にあたるのが、OS27号畑周辺である。降下したAs-A軽石が筋状に残され畑の畝サク方向が確認されるが、残存状況は良好ではないために、詳細は不明である。単位畑としての区分けなのか、あるいは、本来は何筆かに分けられるのかもしれない。また、最も北寄りの畝サクの走行はOS22号畑と似通うが、20mの距離で、標高差が5m近くあり、同一の畑とは考えにくい。各単位畑の畝サクの方向が異なり、分けられる可能性もあるが、根拠が不足するため一括りの畑とした。隣接する21号道は、OS27号畑の北側を東あるいは西へと繋がっていたものと考えられる。

C区(付図(3)、P.L. 9・10)

ここでは、OS32-4～6号畑、OS33号畑、OS34-1～3号畑が検出されている。このうち平坦面が検出されたのはOS32-6号畑、OS33号畑、OS34-3号畑の3か所である。

遺跡全体をおよそ3段の段丘面と捉えるとその下位段にあたるのが、OS32号畑～OS35号畑周辺である。

本書で扱う最上位からは、およそ10mの高低差をとる。OS32号畑は、平坦面と畝サク境界により、3つの中単位

で5つ以上の単位畑に区分けすることができる。東の4mほどの段差側には、8号石垣が配置されて、さらに段差側からの伏流水等の処理のための根切りの溝が東側で面している。

OS33号畑は、直線的に並べられた石垣と北の段差から直線的な区割りの踏分道により区分けされており、降下したAs-A軽石を鋤き込んだ耕作形態と考えられる。OS33号畑とOS34号畑の境界は調査が及ばなかったため、確認できていない。OS34号畑は前回の報告では平坦面が2か所確認され、2つ以上の単位畑が確認できるが、範囲や単位あたりの面積など詳細は不明である。

D区(付図(4)、P.L.12)

ここではOS30号畑、OS31号畑、OS35号畑が検出されている。いずれも遺跡の南西端の台地の縁辺部に位置することから、泥流による浸食が激しいために遺構の残りが悪く、平坦面の存在も不明である。

OS30号畑は、最上位面から傾斜がはじまり、中下位面に向かう斜面畑となっている。泥流の営力による削平等で、畑耕作面の残存状況は不良であり、平坦面は明確でない。しかし、2号道から短冊状に切り出された短冊状の区割りを確認することができる。辛うじて平坦面が検出されていて、これを根拠に単位畑の区分けも可能かもしれないが、詳細は不明となり、今後の課題である。

OS31号畑は、最上位面から傾斜がはじまり、中下位面に向かう斜面畑となっている。泥流の営力による削平等で、畑耕作面の残存状況は不良であり、平坦面は明確でない。しかし、2号道から短冊状に切り出された短冊状の区割りを確認することができる。

OS35号畑は、遺跡全体を3段の段丘面と捉えるとその下位段にあたる。本書で扱う最上位からは、およそ10mの高低差をとる。平坦面は明確でない。OS34号畑とは互いを区分けする踏分道で区画されている。だが、残存状況が不良で詳細については不明である。

7号石垣の西の延長線の段の、OS30号畑とOS31号畑は上の面、OS35号畑は下の段に位置する。

遺跡全体をおよそ3段の階段状テラス面と捉えるとその最下位面にあたるのが、OS33号畑～OS35号畑周辺である。この段差面端の法面側には、石が積まれており、東に存在する7号石垣の延長かもしれないが、一応は9

号石垣と設定する。この9号石垣については、前回報告の7号石垣や今回報告する8号石垣と共に上位面と下位面との畑を分離するテラス状の段を抑える役目を持っていると考えられる。

OS35号畑は、前回報告分よりも今回調査の部分では遺構の残りが悪いものの、直線的に並べられた石垣と北の段差から直線的な区割りの踏分道により区分けされており、降下したAs-Aを鋤き込んだ耕作形態とも考えられる。

OS30号畑とOS31号畑との境界は、泥流による浸食が激しいために確認出来ず、範囲や単位あたりの面積など詳細は不明である。

なお、最上面とは、約10mの高低差である。

E区(第9図、P.L.20)

ここでは、OS40号畑、OS5-3・4号畑が検出されているが、いずれも遺跡の東端の台地の縁辺部に位置することから、泥流による浸食が激しいために遺構の残りが悪く、平坦面の存在も不明である。

2 道

20号道(第7図)

20号道は、今回はA区の調査で北西から南東の向きで僅かに検出されただけだが、前回の報告では、北側で10・11号道とつながるものと考えられるが、10号道と異なるのは、1号河道とは離れていることである。調査区外となって不詳であるが、おそらく10号道とは分岐しているものと考えられる。OS5号畑とOS6・7号畑との境となって16号溝と一致してから右に折れ、南下する。途中、1号焼土がOS6号畑の道際に所在しているが、同時存在したものかは不明である。また、南端が調査区域外に延びているために詳細は不明だが、台地の縁に向かっていることから、そのまま台地の傾斜変換線に沿って延びるのか、あるいは台地の縁から吾妻川に向かって下っていく可能性も考えられる。

21号道(第8図)

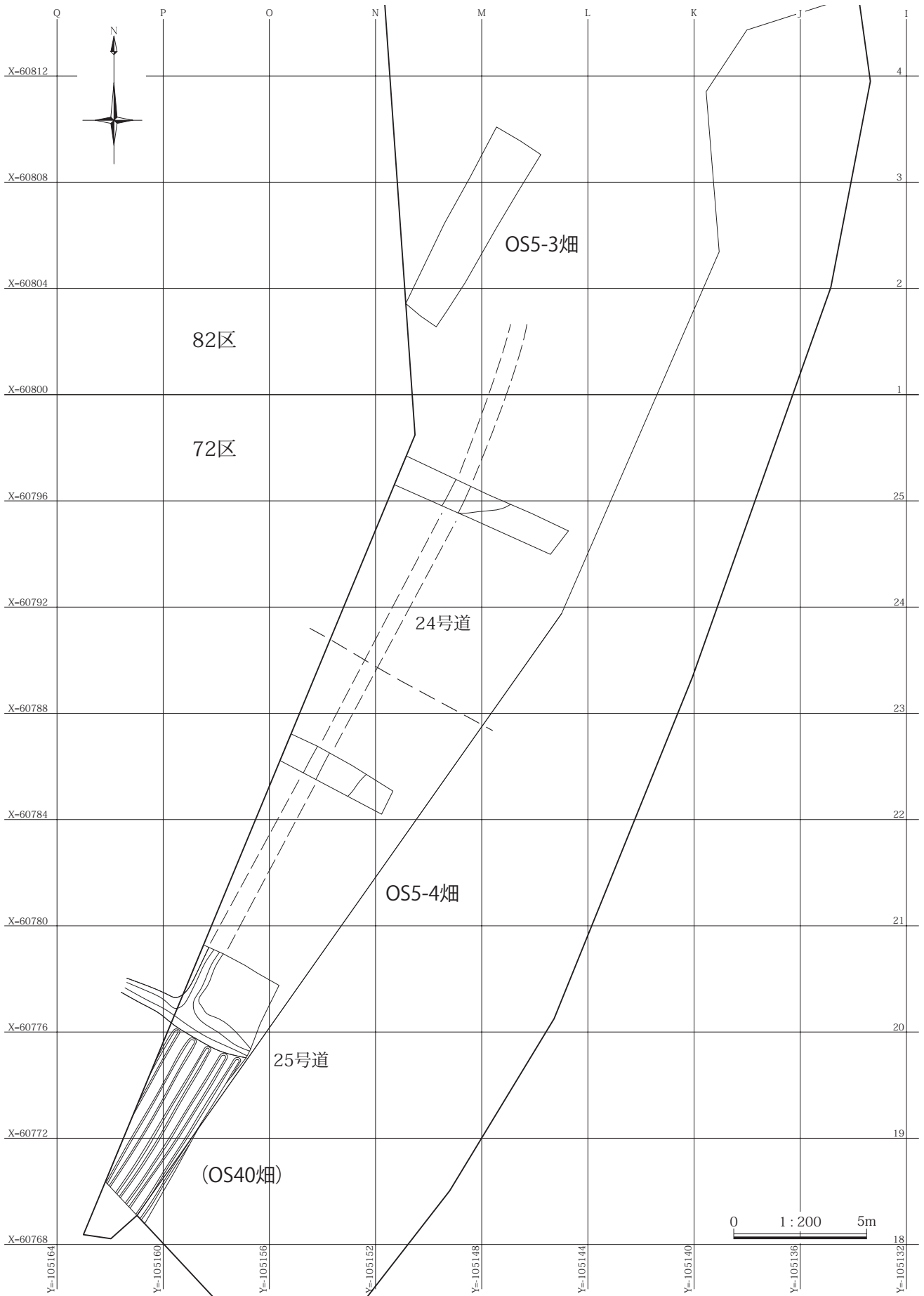
21号道はB区の調査で北東から南西の向きに延びる形で検出された。遺跡が広がる台地の縁辺部、いわゆる傾斜変換線部分に位置する。ここから東は吾妻川に向かって急速に下っていく段丘崖線の地形である。その一部や



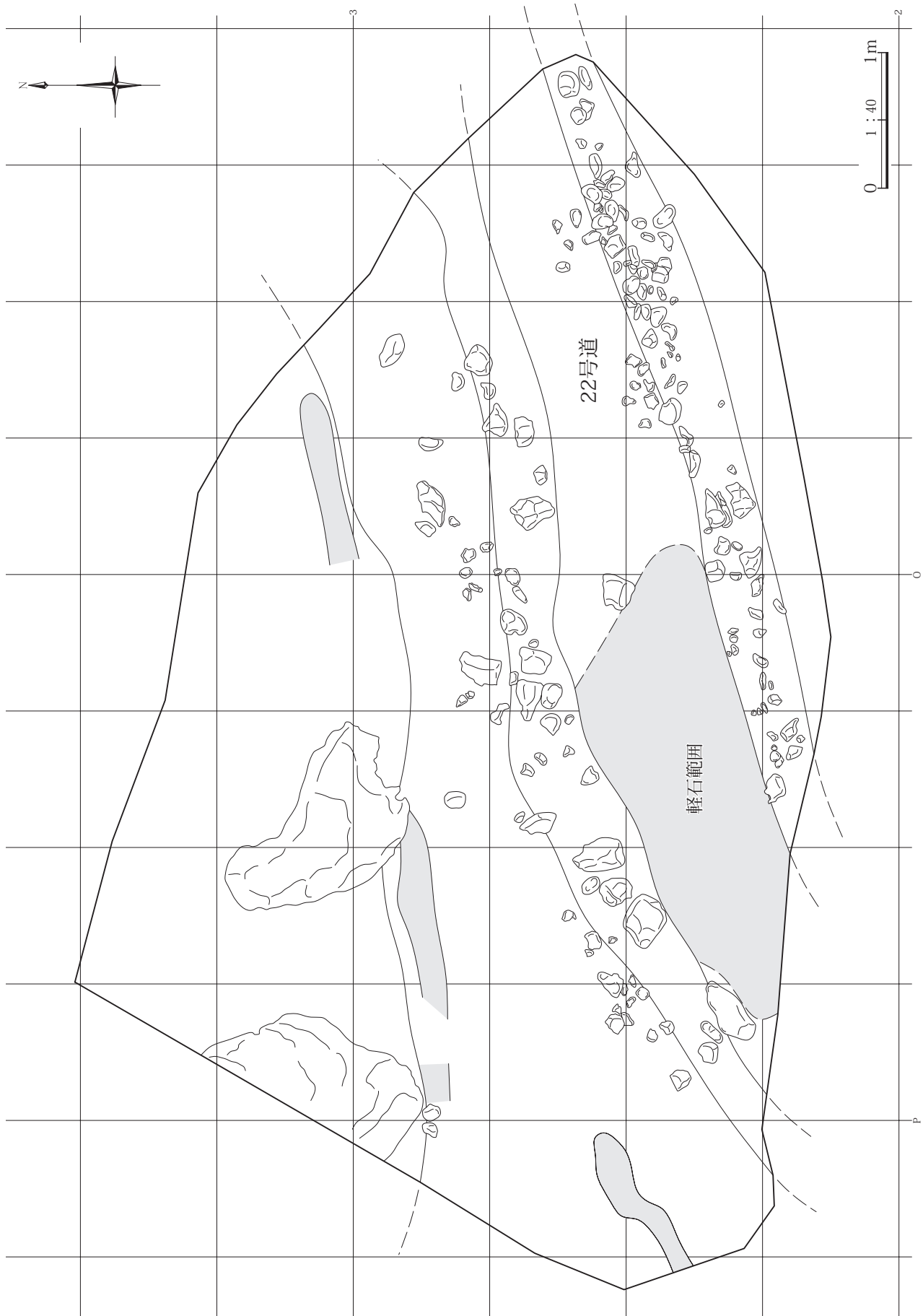
第7図 尾坂遺跡A区畑番号図



第8图 尾坡遗址B区总平面图



第9図 尾坂遺跡E区畑番号図



第10図 尾坂遺跡E区道番号図

北端と南端が調査区域外に延びているために、他の道との分岐などは分からないが、西に存在する1号道との関連も考えられる。つまり延長の可能性もある。

22号道(第10図、P L .17)

22号道は僅かな距離しか検出されていないが、走行方向が東にある4号道との延長線上にあることから、4号道の可能性もある。

23号道(付図(4)、P L .20)

23号道は9号石垣の南側に接している。走行方向は東西で西側は南西に折れて調査区外に延びるが、東側は途中で途切れている。

24号道(第9図、P L .20)

24号道は遺跡の東端の台地の縁辺部をほぼ南北に延びる、いわゆる傾斜変換線部分に位置する。西側に0S5-3・4号畑が隣接して検出されている。この台地での畑としての土地利用の東の際である。ここから東は吾妻川に向かって急速に下っていく段丘崖線の地形である。

25号道(第9図、P L .20)

25号道は東西に延びる道であるが、前回の報告の東側には見つからず、ややずれた場所に16号溝が存在するため、この遺構との関連が疑われる。

3 石垣

8号石垣(付図(3))

8号石垣はほぼ南北に延びる石垣であるが、段丘最下位面の崖の法面を抑えるために積み上げられた構築物である。崖の縁に沿って残る石の様子から北西の存在する0S32号畑と0S33号畑を取り巻くように北側の段丘の段差とを保持するために構築されている。形状は平面的に直線となっている西部分、やや小振りの円礫を中心に用いて築かれた中央部分、途切れながら残存する東側部分の3つの部分に分けられる。西部分には、比較的大きな垂角礫が用いられ、中央部分には円礫が用いられ、さらに小さな円礫が沢山用いられている特徴がある。東側では礫が途切れる部分や地山の礫を用いてあてがわれたかと考えられるような構成になっている。西側はほぼ直線

をなし、途中、0S32号畑と0S33号畑の境界付近でスロープを形成するかのような部分がある。西側と中央の石垣の接合点付近では、積み方による新旧関係があるようにも観察できる。さらに、中央と東側の石垣の接合付近は、南西方向に突出するような形状を呈しており、集めた礫を裏込めに処理をしているかのようにさえ見えるが、詳細は不明である。石垣上位は、泥流あるいは、表土掘削時に削平されてしまっている可能性があるが、畑が広がる耕作地である段丘地形の斜面を保持するための石垣と判断される。

さらに、段丘最下位面の崖の法面に沿って北東に隣接する7号石垣に続く可能性もある。

9号石垣(付図(4))

9号石垣はほぼ東西に延びる石垣であり、8号石垣と同様に段丘最下位面の崖の法面を抑えるために積み上げられた構築物である。すぐ南に23号道が石垣に沿っている。石垣そのものは東西で途切れているが、東に位置する7号石垣に延長で連なるのかもしれない。

4 溝

前回の報告での隣接地で1・5・16号溝が存在するはずが、今回は検出されなかった。

(2)出土遺物

江戸時代後期の天明泥流で埋没した畑などから、陶磁器などが出土している。A区は肥前系の磁器、C区は肥前系の波佐見焼の「くらわんか碗」や、金属製品の煙管の雁首や吸い口、建築材などの木材片や自然木、桃の種子や松笠などの自然植物などが出土している。

第3節 中近世の遺構と遺物

遺構は、土坑、ピット、焼土が検出されている。遺物は、陶磁器や金属製品、木製品が出土している。

(1) 遺構

1 土坑

本遺跡から出土した土坑については、形状や規模、埋没土の様子などから大きく3類に分類した。1類は細長い隅丸長方形であることから、畑の区画の境界際に掘削されることが多い「イモ穴」と認定した。2類は隅丸長方形だが浅く、礫が含まれることから、畑の土に含まれる礫の処理穴と考えられる。3類は、1・2類に該当しない形状・規模の土坑を集めた。

いずれも、第1面の天明面よりも下位であることや埋没土の様子や形状から、前回の報告での第2面の中世、第3面の平安時代にいずれかに属すると考えられると判断した。

400号土坑(第11図、P L . 1)

72区S-18グリッドに位置する。北側が調査区域外にのびるために形状は不明確だが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.50)m、短軸(1.24)m、深さ0.60m。主軸方位はN-49°-W。分類は1類と推定。重複関係は不明。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.6mとやや深く、やや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

401号土坑(第11図、P L . 1)

72区S-15・16、T-16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸3.38m、短軸1.06m、深さ0.22m。主軸方位はN-48°-W。分類は1類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

402号土坑(第11図、P L . 1)

72区T・U-16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸3.58m、短軸1.06m、深さ0.23m。主軸方位はN-38°-W。分類は1類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2

mと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

403号土坑(第11図、P L . 1)

72区V-13グリッドに位置する。南側が調査区域外にのびるために形状は不明確だが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.25)m、短軸0.52m、深さ0.34m。主軸方位はN-49°-W。分類は1類。重複関係は不明。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

404号土坑(第11図、P L . 2)

72区W-12グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.26m、短軸0.66m、深さ0.27m。主軸方位はN-18°-W。分類は2類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

405号土坑(第11図、P L . 2)

72区R-16・17、S-17グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.30m、短軸0.80m、深さ0.17m。主軸方位はN-36°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅くやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

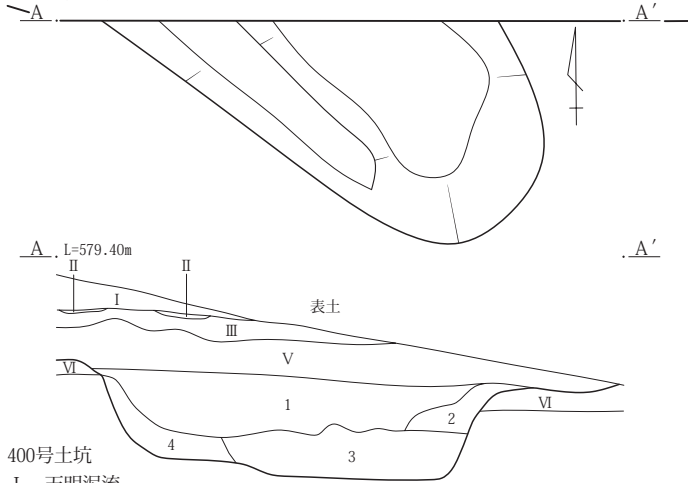
406号土坑(第12図、P L . 2)

72区U・V-16グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.98m、短軸0.85m、深さ0.20m。主軸方位はN-42°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、上半部はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

407号土坑(第12図、P L . 2)

72区U・V-16グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.84m、短軸0.64m、深さ0.28 m。主軸方

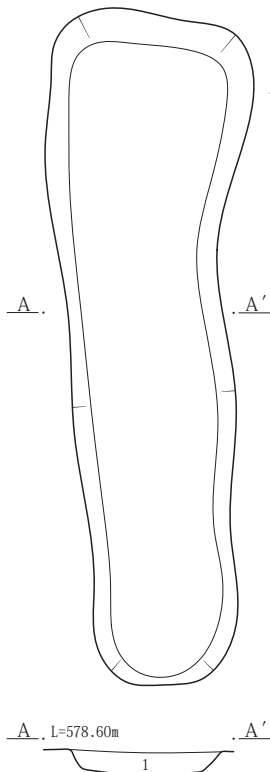
400号土坑



400号土坑

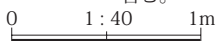
- I 天明泥流
 - II As-A
 - III 褐灰色土 畑耕作土。粘性やや有り。鉄分沈着が見られる。
 - V 黒褐色土 黄色や白色の細粒軽石をゴマ塩状に含む。炭化物粒を多量、1~10cm大の亜角礫を少量、赤褐色粒を若干含む。
 - VI 黄褐色土 砂質土。白色粒、黄橙色粒を多量に含む。
 - 1 V層に黄褐色ブロック土が混じる。
 - 2 V層と似ている。やや明るく、暗褐色ブロック土を少量含む。
 - 3 V層と似ている。白色粒、黄橙色粒を多量に、基本VI層のブロック土を少量含む。
 - 4 黄褐色土 白色粒、黄橙色粒、黒褐色や暗褐色のブロック土を少量、1cm大の赤褐色ブロック土を若干含む。
- ※ 1~4は、400号土坑。

402号土坑

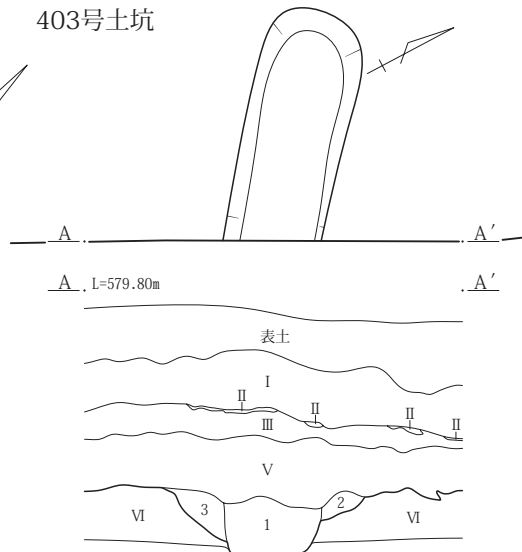


402号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒、炭化物粒を若干含む。1cm大の礫を含む。



403号土坑

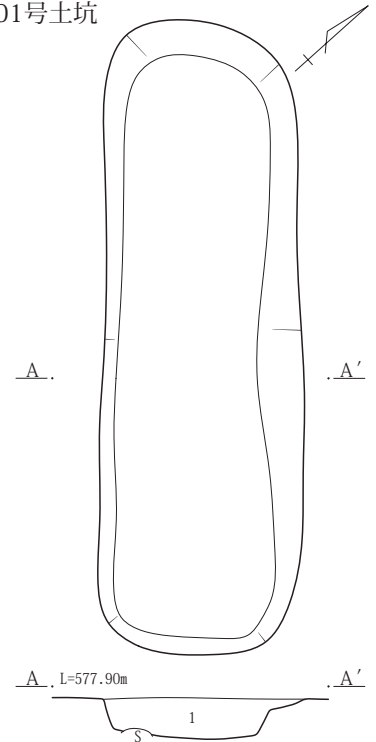


403号土坑

- I 天明泥流
 - II As-A
 - III 褐灰色土 畑耕作土。粘性やや有り。鉄分沈着が見られる。
 - V 黒褐色土 黄色や白色の細粒軽石をゴマ塩状に含む。炭化物粒を多量、1~10cm大の亜角礫を少量、赤褐色粒を若干含む。
 - VI 黄褐色土 白色粒、黄橙色粒、1cm大の炭化物、黒褐色や暗褐色のブロック土を少量、1cm大の赤褐色ブロック土を若干含む。
 - 1 V層に明黄褐色ブロック土を多量に含む。
 - 2 V層に黄橙色粒・白色粒を多量に含む。
 - 3 黄褐色土 白色粒、黄橙色粒、黒褐色や暗褐色のブロック土を少量、1cm大の赤褐色ブロック土を若干含む。
- ※ 1~3は、403号土坑。

第11図 土坑(1)

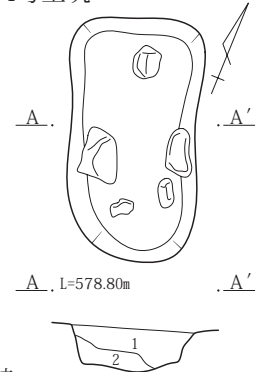
401号土坑



401号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒、炭化物粒を若干含む。1cm大の礫を含む。

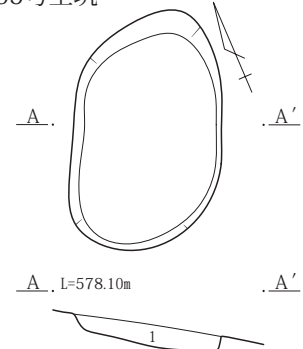
404号土坑



404号土坑

- 1 黒褐色土 5cm大の亜角礫を多量、白色粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 暗褐色ブロック土、白色粒を多量に含む。砂質土。

405号土坑



405号土坑

- 1 黒褐色土 黄色粒、炭化物粒、黄色ブロック土を若干含む。

位はN-10°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

408号土坑(第12図、P L . 2)

72区W-14・15グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.12m、短軸0.74m、深さ0.15m。主軸方位はN-40°-E。分類は2類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

409号土坑(第12図、P L . 4)

63区H-15・16グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸5.32m、短軸0.82m、深さ0.39m。主軸方位はN-30°-W。分類は1類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

410号土坑(第12図、P L . 4)

63区I・J-14グリッドに位置する。隅丸長方形。規模は長軸2.10m、短軸1.24m、深さ0.50m。主軸方位はN-65°-W。分類は3類。重複関係は411号土坑とで、411号土坑より新しい。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

411号土坑(第12図、P L . 4)

63区J-14グリッドに位置する。410号土坑と重複しており、形状は不明確だが、楕円形か？規模は長軸(0.45)m、短軸0.72m、深さ0.38m。主軸方位は不明。分類は3類。重複関係は410号土坑とで、410号土坑より古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

412号土坑(第12図、P L . 4)

63区J-11グリッドに位置する。形状は不定形。規模は長軸1.92m、短軸1.55m、深さ0.38m。主軸方位はN-58°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、その他の壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。縄文土器が出土している。

413号土坑(第13図、P L . 4)

63区I・J-19・20グリッドに位置する。北半分が調査区域外にのびるので、形状は不明確だが、隅丸長方形と推定される。規模は長軸(1.14)m、短軸0.75m、深さ0.46m。主軸方位はN-39°-E。分類は1類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

414号土坑(第13図、P L . 5)

63区B-20・21グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.80m、短軸0.52m、深さ0.16m。主軸方位はN-39°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

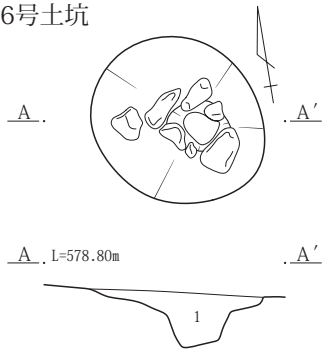
415号土坑(第13図、P L . 5)

63区B-20グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.00m、短軸0.74m、深さ0.16m。主軸方位はN-44°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

416号土坑(第13図、P L . 5)

63区C・D-18グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.40m、短軸1.08m、深さ0.33m。主軸方位はN-40°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと

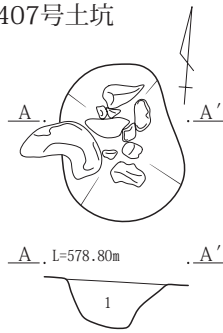
406号土坑



406号土坑

1 黒褐色土 黒色味強く、白色粒、黄橙色粒を少量、3cm大の褐色ブロック土を若干含む。シルト質土。3cm~10cm大の礫が周りに並ぶ。

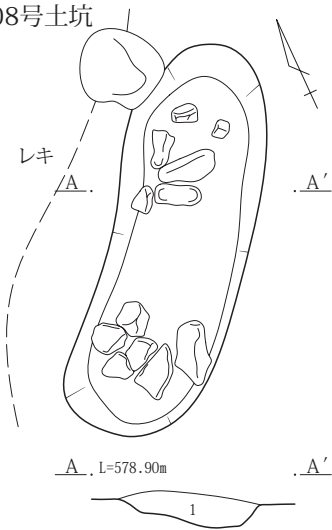
407号土坑



407号土坑

1 黒褐色土 黒色味強く、白色粒、黄橙色粒を少量、3cm大の褐色ブロック土を若干含む。シルト質土。

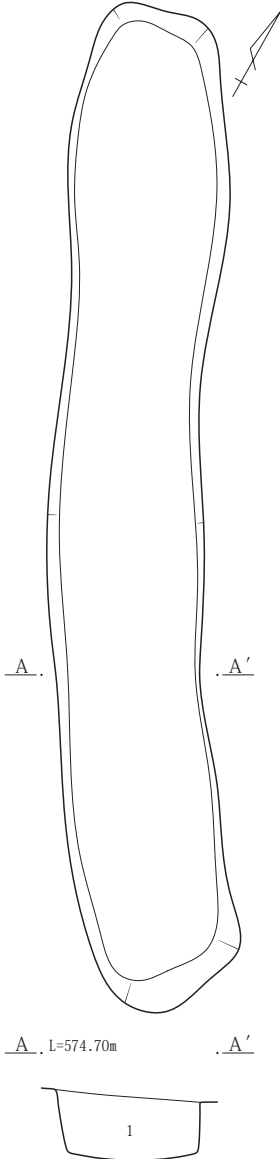
408号土坑



408号土坑

1 黒褐色土 黒色味強く、白色粒、黄橙色粒、5~10cm大の垂円礫を少量、3cm大の褐色ブロック土を若干含む。シルト質土。長方形の土坑。

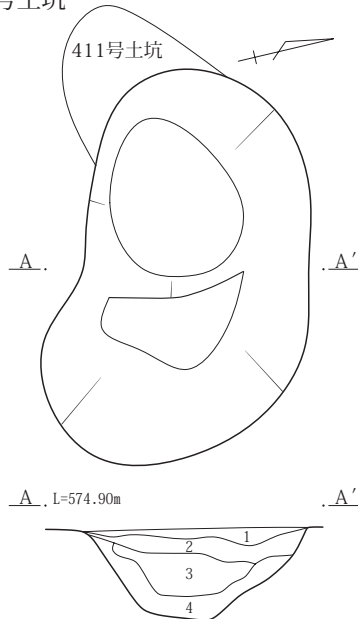
409号土坑



409号土坑

1 黒褐色土 黄橙色粒を多量、黄褐色砂質ブロック土、白色粒を少量、炭化物粒を若干含む。

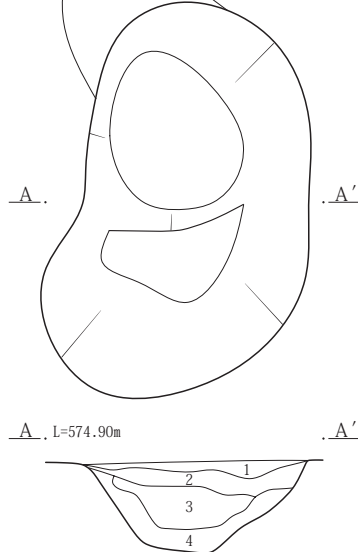
410号土坑



410号土坑

1 褐灰色土 白色粒、黄橙色粒を多量、1cm大の礫を少量含む。
2 暗褐色土 白色粒、黄橙色粒、炭化物粒多量、黒色ブロック土、1cm大の礫を若干含む。
3 黒褐色土 白色粒、黄橙色粒、炭化物粒多量、黄褐色砂質ブロック土、1cm大の礫を若干含む。
4 暗褐色土 黄褐砂質ブロック土を大量、白色粒、黄橙色粒を少量、炭化物粒を若干含む。

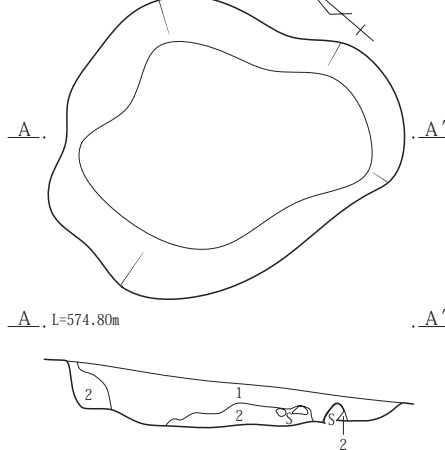
411号土坑



411号土坑

1 暗褐色土 黄橙色粒を多量、炭化物粒、白色粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 黄橙色粒、暗褐色ブロック土を少量含む。
3 暗褐色土 黄褐砂質ブロック土を大量、白色粒、黄橙色粒を少量、炭化物粒を若干含む。

412号土坑



412号土坑

1 黒褐色土 やや淡い。1~2cm大の炭化物を多量、黄橙色粒を少量含む。
2 黄褐色土 5~10cm大の垂円礫を少量含む。1層の土が混じる。
※ 縄文土器1片出土。



第12図 土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物

浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

417号土坑(第13図、P L . 5)

63区I-21グリッドに位置する。形状は不定形。規模は長軸0.48m、短軸0.42m、深さ0.20m。主軸方位はN-52°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、東壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、その他はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

418号土坑(第13図、P L . 5)

63区I-22グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.76m、短軸0.58m、深さ0.23m。主軸方位はN-88°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

419号土坑(第13図、P L . 5)

63区H-20グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.02m、短軸0.76m、深さ0.38m。主軸方位はN-54°-W。分類は3類。重複関係はないが、床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

420号土坑(第13図、P L . 5)

63区H-22グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.48m、深さ0.20m。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

421号土坑(第13図、P L . 5・6)

63区H-23・24グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸0.90m、短軸0.74m、深さ0.26m。主軸方位はN-10°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと

浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

422号土坑(第14図、P L . 6)

63区F・G-18グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.60m、深さ0.23m。分類は3類。重複関係はない。床面はほぼ平らで、遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

423号土坑(第14図、P L . 6)

63区I-23グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径1.28m、深さ0.42m。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、北から西にかけての壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、その他はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

424号土坑(第14図、P L . 6)

63区E-22・23グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径0.90m、深さ0.24m。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

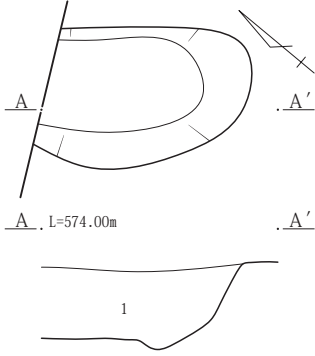
425号土坑(第14図、P L . 6)

63区D・E-20グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.18m、短軸0.97m、深さ0.48m。主軸方位はN-40°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.5mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は細かく分離でき、炭化物がどの層からも検出される。基本土層の第IV層からV層を中心としている。

426号土坑(第14図、P L . 6)

63区C・D-22・23グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.22m、短軸1.13m、深さ0.21m。主軸方位はN-10°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2

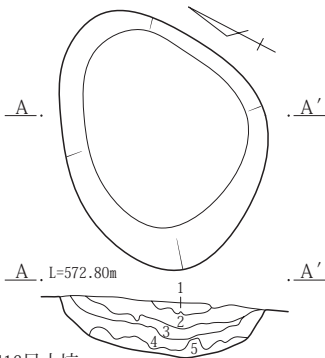
413号土坑



413号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色粒を多量に含む。

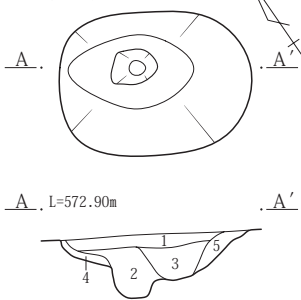
416号土坑



416号土坑

- 基本IV層。
- 黒褐色土 白色粒を少量、黄褐色粒、炭化物粒を若干含む。鉄分沈着有り。
- 暗褐色土 黄褐色粒を少量含む。
- にぶい黄褐色土
- 明黄褐色土 砂質土。

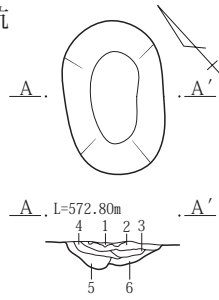
419号土坑



419号土坑

- 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒を多量に含む。鉄分沈着有り。
- 黒褐色土 黄褐色粒、白色粒を若干含む。
- にぶい黄褐色土 黒色ブロック土を多量に含む。
- にぶい黄褐色土 黄褐色粒を多量に含む。
- にぶい黄褐色土 黄褐色ブロック土を含み、黄褐色粒を少量含む。

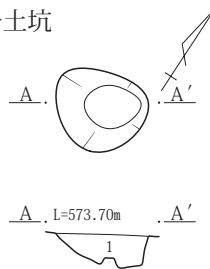
414号土坑



414号土坑

- にぶい黄褐色土 シルト質。As-Kkか？
- 黒褐色土 やや暗い。白色粒、横橙色粒、炭化物粒を少量含む。
- 黒褐色土 白色黄褐色粒、黄褐色砂質ブロック土を多量に含む。
- 黒褐色土 黄褐色砂質ブロック土を含まない3層。
- 暗褐色土 やや明るい。白色粒、黄褐色粒を多量に含む。縄文の土器片が1つ出土。
- 褐色土 やや明るい。暗褐色ブロック土、白色粒、黄褐色粒を多量に含む。

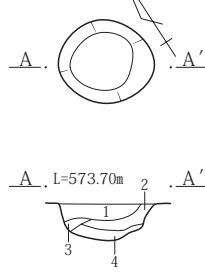
417号土坑



417号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒、黄褐色粒を多量に、明黄褐色ブロック土を若干含む。

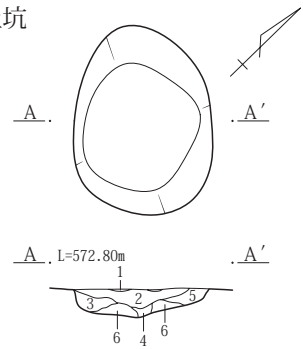
420号土坑



420号土坑

- 黒褐色土 黄褐色粒を多量に含む。
- 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒を多量に含む。
- 黄褐色土 黒色ブロック土を含む。
- にぶい黄褐色土 砂質

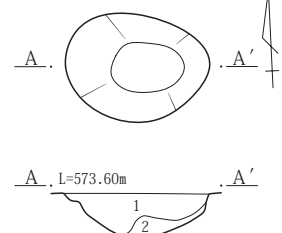
415号土坑



415号土坑

- にぶい黄褐色土 シルト質。As-Kkか？
- 黒褐色土 1cm大の黄褐色粒を多量、白色粒、炭化物粒を少量含む。
- 暗褐色土 白色粒、黄褐色粒、5cm大の炭化物粒を多量に含む。
- 暗褐色土 白色粒、2cm大の黄褐色粒、5cm大の炭化物粒を多量に含む。
- 暗褐色土 白色粒、黄褐色粒、5cm大の炭化物粒を少量含む。
- 褐色土 やや明るい。暗褐色ブロック土、白色粒、黄褐色粒を多量に含む。

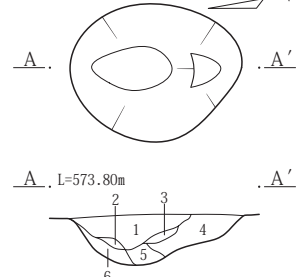
418号土坑



418号土坑

- 黒褐色土 白色粒、黄褐色粒を多量に、明黄褐色ブロック土を若干含む。鉄分沈着有り。
- にぶい黄褐色土 1cm大の礫を含む。砂質土。

421号土坑



421号土坑

- 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒を多量に含む。
- 暗褐色土 黒色ブロック土を含む。
- にぶい黄褐色土 黒色ブロック土を含む。
- 黒褐色土
- にぶい黄褐色土 黒色ブロック土を含む。
- 黄褐色土 砂質。地山。



第13図 土坑(3)

第3章 検出された遺構と遺物

mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

427号土坑(第14図、P L . 6)

63区E-20・21グリッドに位置する。形状は楕円形。規模は長軸1.54m、短軸1.20m、深さ0.83m。主軸方位はN-36°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁の下半部は緩やかに立ち上がるが、上半部は2段で垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

428号土坑(第15図、P L .13)

75区B-4・5グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径1.74m、深さ0.80m。分類は3類。重複関係はない。床面はやや平らで、遺構確認面からの深さは約0.8mとやや深く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

429号土坑(第14図、P L .13)

75区B-4グリッドに位置する。南側が調査区域外にのびるために形状は不定形。規模は長軸0.87m、短軸(0.74)m、深さ0.63m。主軸方位はN-43°-E。分類は3類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.6mとやや深く、東壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がり、西側はやや緩やかに立ち上がる。東壁の一部が崩落により、ハンクしている。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

430号土坑(第14図、P L .13)

75区A-5グリッドに位置する。形状は楕円形だが、ピットに近い。規模は長軸0.32m、短軸(0.18)m、深さ0.13m。主軸方位はN-17°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.1mと浅く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

431号土坑(第14図、P L .13)

64区O-25グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.46m、深さ0.13m。分類は3類。重複関係はない。

床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.1mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

432号土坑(第15図、P L .13)

64区O-25グリッドに位置する。西壁が調査区域外にのびるために形状は不明確だが、楕円あるいは不定形。規模は長軸(0.76)m、短軸0.64m、深さ0.28m。主軸方位はN-70°-W。分類は3類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

433号土坑(第15図、P L .13)

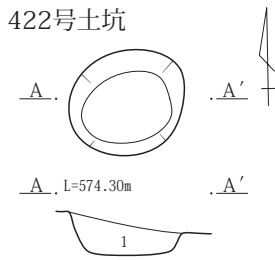
75区A・B-5グリッドに位置する。形状はほぼ円形。規模は径(0.75)m、深さ0.63m。分類は3類。重複関係はない。床面はしっかりしているが、確認面の周縁に石が並ぶ。遺構確認面からの深さは約0.6mとやや深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁の一部がオーバーハンクしている。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

434号土坑(第15図、P L .13)

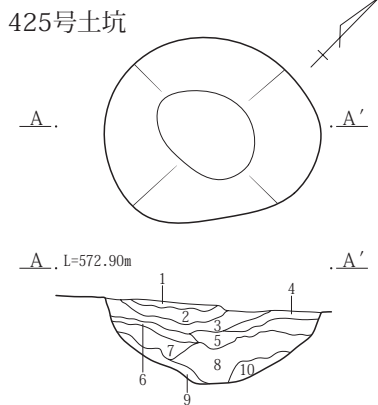
64区O-24グリッドに位置する。形状は円形。規模は径0.74m、深さ0.18m。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

435号土坑(第15図、P L .14)

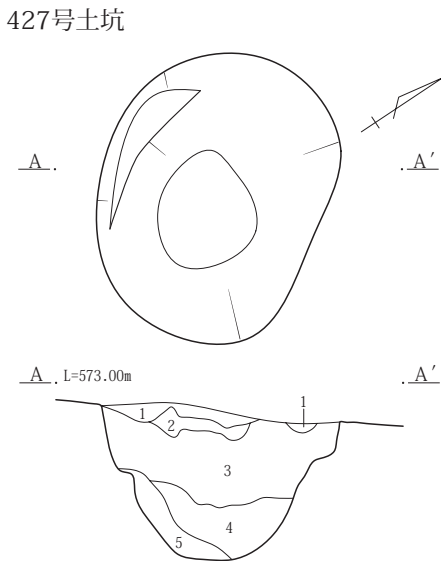
64区O-25、74区O-1グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸2.45m、短軸1.42m、深さ0.30m。主軸方位はN-88°-W。分類は3類。重複関係は438号土坑とで、438号土坑より新しい。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、東壁の下半部はほぼ垂直に立ち上がるが、西壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。



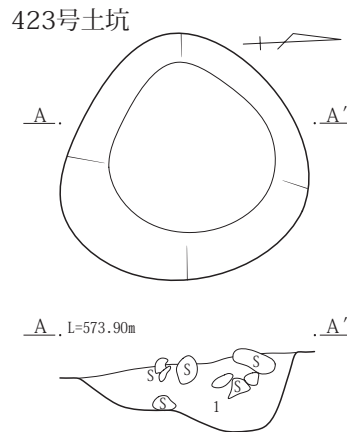
422号土坑
1 黒色土 5~20cm大の礫を少量、白色粒、黄褐色粒を若干含む。



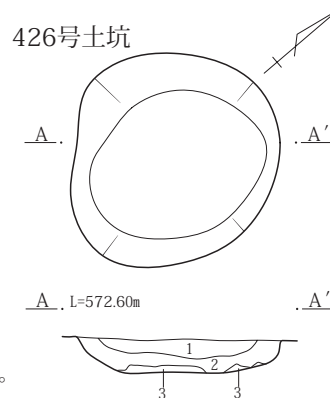
425号土坑
1 黒褐色土 白色粒を若干含む。均質土。鉄分沈着が見られる。
2 灰白色土 シルト質。青灰(10YR6/1)ブロック土を少量含む。As-Kkか?
3 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒を少量、炭化物粒を若干含む。
4 黒褐色土 3層と似ている。
5 黒褐色土 黄褐色粒、白色粒、炭化物粒を若干含む。
6 暗褐色土 やや明るい。黄褐色粒を少量、炭化物粒を若干含む。
7 暗褐色土 黄褐色粒、黒色ブロック土を少量含む。
8 にぶい黄褐色土 黄褐色粒、白色粒、炭化物粒を多量、黄褐色や黒色のブロック土を若干含む。
9 黄褐色土 砂質土。黒褐色ブロック土を少量含む。
10 黄褐色土 砂質土。黒褐色や暗褐色のブロック土を少量含む。



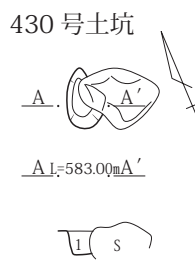
427号土坑
1 黒褐色土 白色粒を若干含む。
2 にぶい黄褐色土 黒色ブロック土を多量、黄褐色粒を若干含む。
3 暗褐色土 黄褐色粒、白色粒を多量、黄褐色ブロック土を若干含む。
4 黒褐色土 黄褐色粒、白色粒を多量、黄褐色ブロック土を少量含む。
5 にぶい黄褐色土 黄褐色粒、白色粒を少量、黒色ブロック土を少量含む。



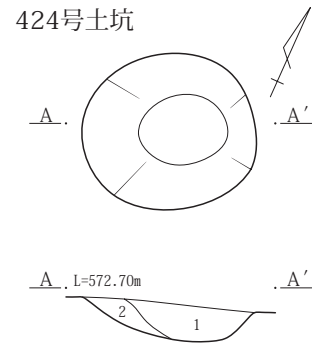
423号土坑
1 黒色土 5~20cm大の礫を少量、白色粒、黄褐色粒を若干含む。



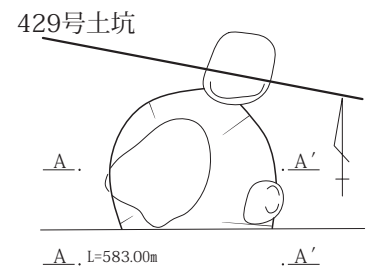
426号土坑
1 暗褐色土 白色粒、炭化物粒を若干含む。
2 にぶい黄褐色土 黄褐色粒、白色粒を少量、黄褐色ブロック土を若干含む。
3 黄褐色土 黄褐色粒を少量含む。
※ 自然堆積。



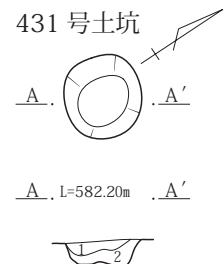
430号土坑
1 黒褐色土 褐色ブロック土を少量含む。



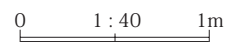
424号土坑
1 黒褐色土 黄褐色粒、白色粒を多量、黄褐色ブロック土を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 白色粒を多量、黄褐色粒、黒褐色ブロック土を少量含む。



429号土坑
1 黒褐色土 白色粒、黄褐色粒、炭化物粒を少量含む。
2 暗褐色土 黄褐色粒、炭化物粒を多量、下層に黄褐色ブロック土を若干含む。縁辺には人頭大の亜円礫が見られる。縄文土器片出土。



431号土坑
1 黒褐色土 黄褐色粒、炭化物粒、黄褐色ブロック土を若干含む。
2 にぶい黄褐色土 黄褐色粒を若干含む。



第14図 土坑(4)

436号土坑(第15図、P L .14)

64区O-25グリッドに位置する。形状は楕円形と推定される。規模は長軸(0.54)m、短軸0.66m、深さ0.20m。主軸方位はN-70°-W。分類は3類。重複関係は不明である。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.2mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

437号土坑(第15図、P L .14)

64区Q・R-22グリッドに位置する。形状は円形。規模は径1.84m、深さ0.30m。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

438号土坑(第16図、P L .14)

74区O-1グリッドに位置する。435号土坑と重複しており、形状は不明である。規模は長軸0.80m、短軸(0.27)m、深さ0.27m。主軸方位は不明。分類は3類。重複関係は435号土坑とで、435号土坑より古い。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

439号土坑(第16図、P L .14)

75区B-5グリッドに位置する。形状は楕円形である。規模は長軸1.05m、短軸1.00m、深さ0.33m。主軸方位はN-37°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

440号土坑(第16図、P L .14)

74区Y-5グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸1.10m、短軸0.90m、深さ0.25m。主軸方位はN-85°-E。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.3mと浅く、壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

441号土坑(第16図、P L .14)

75区A-4グリッドに位置する。形状は隅丸長方形。規模は長軸0.88m、短軸(0.56)m、深さ0.40m。主軸方位はN-48°-W。分類は3類。重複関係はない。床面はややしっかりしない。遺構確認面からの深さは約0.4mと浅く、西壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁はやや緩やかに立ち上がる。埋没土は基本土層の第IV層からV層を中心としている。

2 ピット(第17・18図、P L . 6・7・14・15)

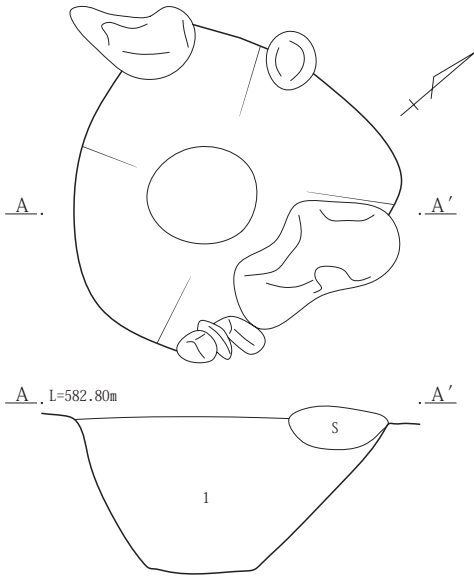
33基が検出されているが、遺構検出時の形状が円形や楕円形などと多岐にわたり、規模や深さ、断面や埋没土の様子からは、柱穴などの特定の遺構に分類することは判断出来なかった。

3 焼土

19号焼土(第18図、P L . 8)

63区C-22グリッドに位置する。長軸0.88m、短軸0.32m、深さ0.14mの楕円形で、深さは0.1mと浅いものの、埋没土に多量の焼土を含むが、遺構の性格は不明である。

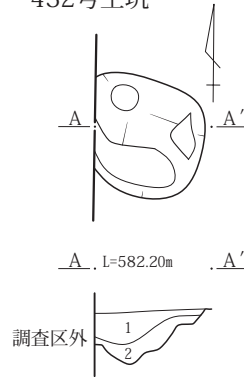
428号土坑



428号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒、黄橙色粒を多量、明黄褐色砂質ブロック土を少量含む。縁辺には人頭大の垂円礫が見られる。縄文土器片出土。

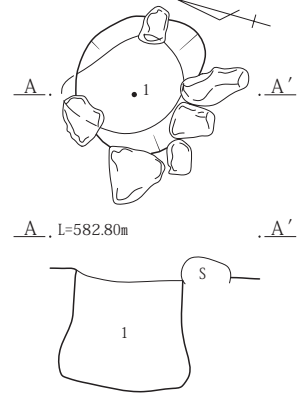
432号土坑



432号土坑

- 1 黒褐色土 黄橙色粒、黄褐色ブロック土を少量、白色粒、炭化物粒を若干含む。
2 にぶい黄褐色土 黄橙色粒、炭化物粒、黒色ブロック土を若干含む。

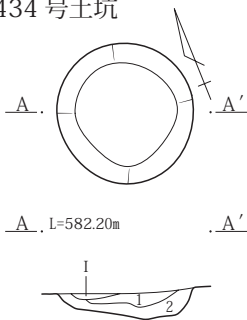
433号土坑



433号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒、黄橙色粒、炭化物粒、褐色ブロック土を多量、1cm大の垂円礫を若干含む。底部に礫有。

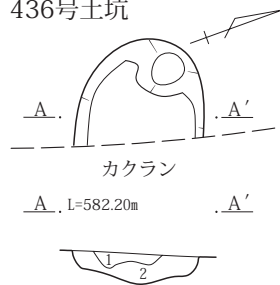
434号土坑



434号土坑

- 1 天明泥流堆積物
1 黒褐色土 黄橙色粒を多量に含む。
2 暗褐色土 黄橙色粒を多量、炭化物粒を若干含む。

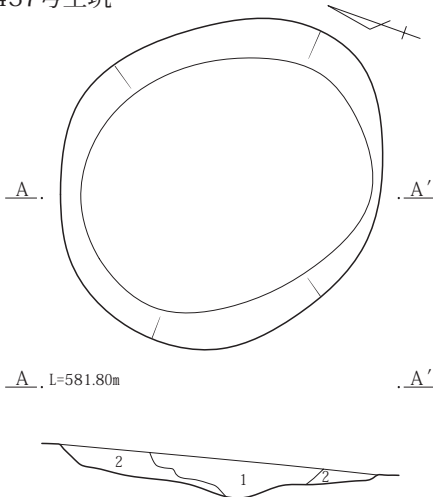
436号土坑



436号土坑

- 1 黒褐色土 黄橙色粒を若干含む。
2 にぶい黄褐色土 黄橙色粒を少量含む。

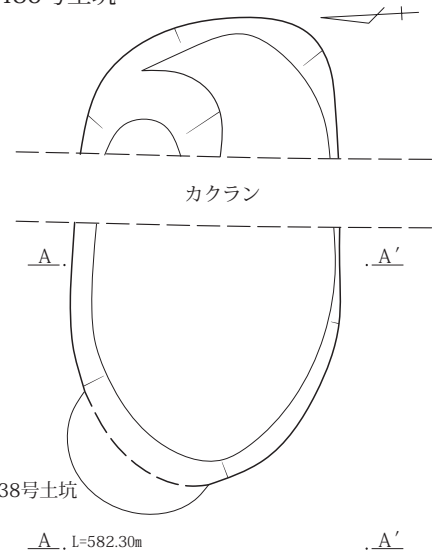
437号土坑



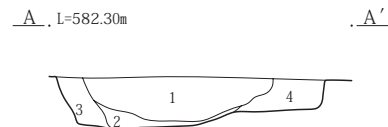
437号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色ブロック土を多量、黄橙色粒、白色粒、炭化物粒を若干含む。
2 黄褐色土 黄橙色粒を若干含む。

435号土坑

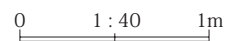


438号土坑



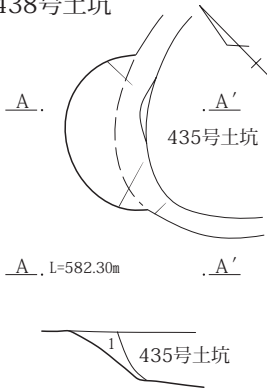
435号土坑

- 1 黒褐色土 黄橙色粒を多量、白色粒を少量、炭化物粒を若干含む。鉄分沈着あり。
2 黄褐色土 黒色ブロック土を多量に含む。
3 暗褐色土 黄橙色粒を少量含む。
4 にぶい黄 黄橙色粒を多量、白色粒を若干含む。



第15図 土坑(5)

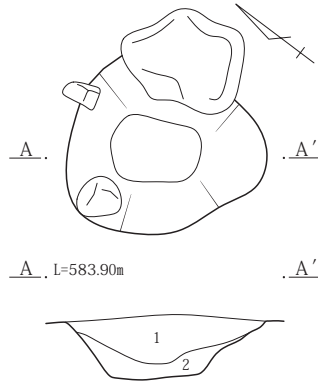
438号土坑



438号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色粒、炭化物粒、白色粒を少量含む。
 ※ 435号土坑との切り合いだが435号土坑のほうが新しいと思われる。

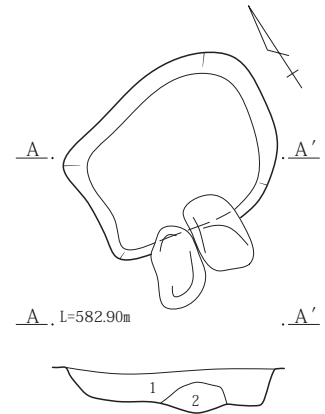
439号土坑



439号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色粒、1 cm大の亜円礫を若干含む。下層ほど褐色ブロック土を多く含む。
 2 褐色土 黒色ブロック土を多量に含む。
 ※ 人為埋没か。

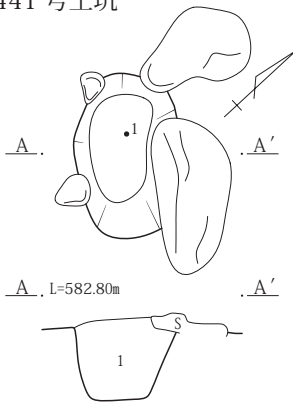
440号土坑



440号土坑

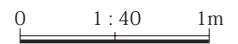
- 1 黒褐色土 褐色ブロック土を少量含む。
 2 黄褐色土 5~10cm大の亜円礫、暗褐色ブロック土を多量に含む。

441号土坑

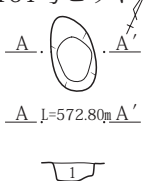
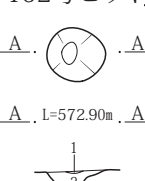
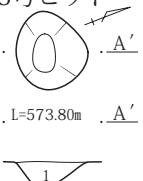
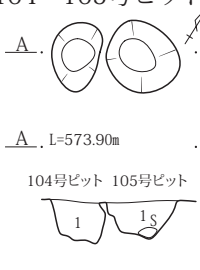
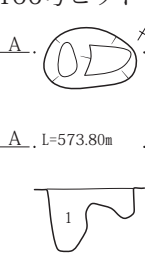
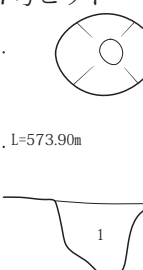
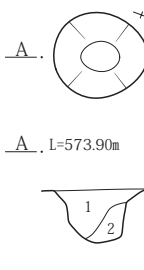
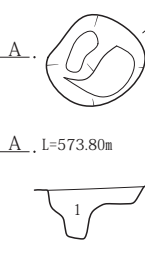
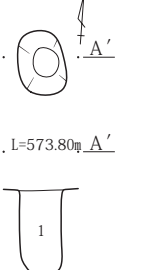
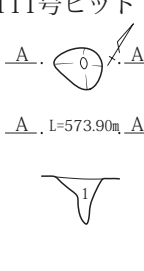
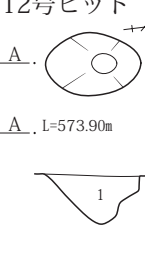
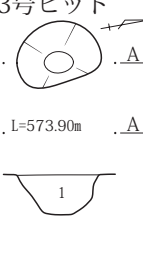
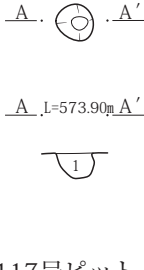
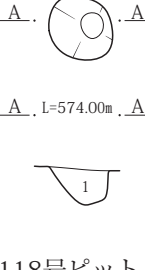
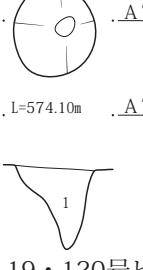
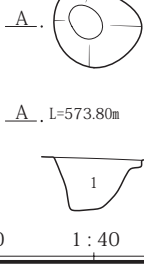
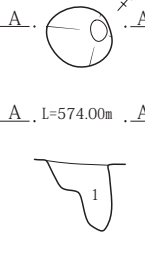
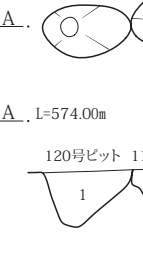


441号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物粒を大量、白色粒、黄褐色粒、1 cm大の亜円礫を多量に含む。縄文土器片出土。



第16図 土坑(6)

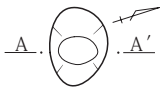
<p>101号ピット</p>  <p>A, L=572.80m A'</p>	<p>102号ピット</p>  <p>A, L=572.90m A'</p>	<p>103号ピット</p>  <p>A, L=573.80m A'</p>	<p>101号ピット 1 黒褐色土 黄褐色砂質ブロック土を多量、1 cm大の亜角礫、白色粒、黄橙色粒を少量含む。</p> <p>102号ピット 1 As-A。 2 黒褐色土 やや明るい。赤褐色の鉄分沈着有。白色粒を少量含む。</p>
<p>104・105号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p> <p>104号ピット 105号ピット</p>	<p>106号ピット</p>  <p>A, L=573.80m A'</p>	<p>107号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p>	<p>103号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>104号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。</p> <p>105号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。底部に亜円礫有。</p>
<p>108号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p>	<p>109号ピット</p>  <p>A, L=573.80m A'</p>	<p>110号ピット</p>  <p>A, L=573.80m A'</p>	<p>106号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>107号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p>
<p>111号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p>	<p>112号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p>	<p>113号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p>	<p>108号ピット 1 黒褐色土 白色粒、黄橙色粒を多量に含む。鉄分沈着層有。 2 黄褐色土 砂質土。黒色ブロック土を少量含む。</p> <p>109号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒、5 cm大の亜角礫を若干含む。</p>
<p>114号ピット</p>  <p>A, L=573.90m A'</p>	<p>115号ピット</p>  <p>A, L=574.00m A'</p>	<p>116号ピット</p>  <p>A, L=574.10m A'</p>	<p>110号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>111号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。</p>
<p>117号ピット</p>  <p>A, L=573.80m A'</p>	<p>118号ピット</p>  <p>A, L=574.00m A'</p>	<p>119・120号ピット</p>  <p>A, L=574.00m A'</p>	<p>112号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>113号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>114号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>115号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。</p> <p>116号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。</p> <p>117号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大 1～3 cmブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>118号ピット 1 黒褐色土 1～3 cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。</p> <p>119号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土混じりの土。やや大きめの黄橙色粒を多量、白色粒を少量含む。</p> <p>120号ピット 1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。</p>

0 1:40 1m

第17図 ピット(1)

第3章 検出された遺構と遺物

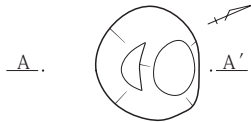
121号ピット



A, L=573.90m A'



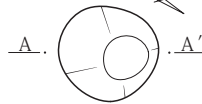
122号ピット



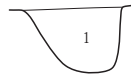
A, L=573.80m A'



123号ピット



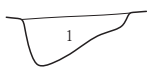
A, L=574.00m A'



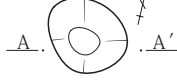
124号ピット



A, L=573.90m A'



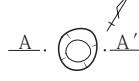
125号ピット



A, L=573.60m A'



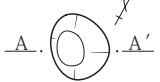
126号ピット



A, L=574.30m A'



127号ピット



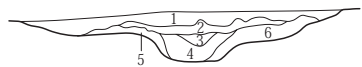
A, L=574.20m A'



128号ピット



A, L=572.80m A'



129号ピット



A, L=582.90m A'



130号ピット



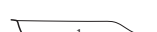
A, L=582.90m A'



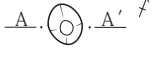
131号ピット



A, L=582.90m A'



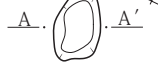
132号ピット



A, L=582.70m A'



133号ピット



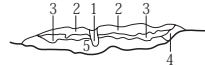
A, L=582.70m A'



19号焼土



A, L=572.70m A'



121号ピット

1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

122号ピット

1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

123号ピット

1 黒色土 縁辺には10cm大の亜角礫を多量に含む。白色粒、黄橙色粒を若干含む。

124号ピット

1 黒褐色土 1~3cm大の黄褐色ブロック土を少量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

125号ピット

1 黒褐色土 黄褐色ブロック土、白色粒、黄橙色粒を多量、炭化物粒を少量含む。

126号ピット

1 黒褐色土 黄褐色砂質ブロック土を多量、白色粒、黄橙色粒を若干含む。

127号ピット

1 黒褐色土 白色粒、黄橙色粒を若干含む。

128号ピット

1 黒褐色土 白色粒を若干含む。均質土。鉄分沈着が見られる。
 2 灰白色土 シルト質。青灰ブロック土を少量含む。As-Kkか?
 3 褐灰色土 白色粒を若干含む。
 4 暗褐色土 黄橙色粒を多量に含む。
 5 黒褐色土 炭化物粒を少量含む。
 6 黄褐色土 黒色ブロック土、黄橙色粒を少量含む。
 ※ 3、4層がピット埋没土。

129号ピット

1 黒褐色土 やや明るい。基本土層IVに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

130号ピット

1 黒褐色土 やや明るい。基本土層IVに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

131号ピット

1 黒褐色土 やや明るい。基本土層IVに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

132号ピット

1 黒褐色土 やや明るい。基本土層IVに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

133号ピット

1 黒褐色土 やや明るい。基本土層IVに似ている。褐色土が混じる。白色粒、黄橙色粒を少量含む。

19号焼土

1 暗褐色土 根のカクラン。
 2 黄褐色土 焼土。黒色ブロック土を少量含む。
 3 暗褐色土 焼土ブロックを多量に混じる。
 4 黄褐色土 黄砂質土主体。炭化物粒を少量、黒色ブロック土を若干含む。
 5 暗褐色土 白色粒を少量、黄橙色粒を若干含む。

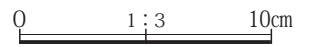
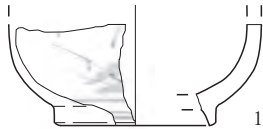
0 1:40 1m

第18図 ピット(2)・19号焼土

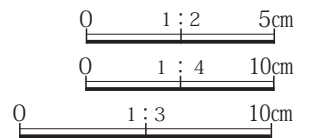
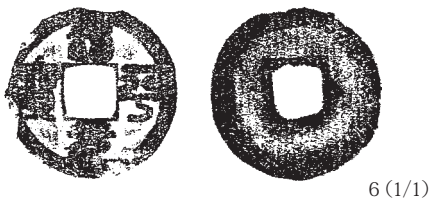
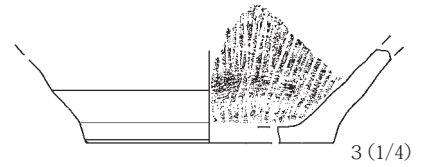
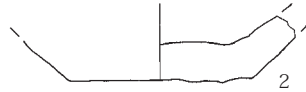
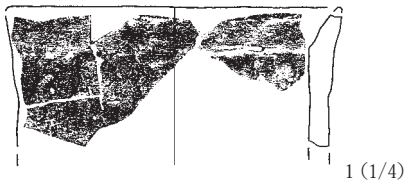
(2)出土遺物

中近世の2面からは、中国・北宋の1064（嘉祐8）年に改号した1064（治平元）年に鑄造された『治平元寶』の篆書書体で発行した銭貨が出土している。

この他、D区から縄文時代中期後半の深鉢の土器の破片が4点出土している。

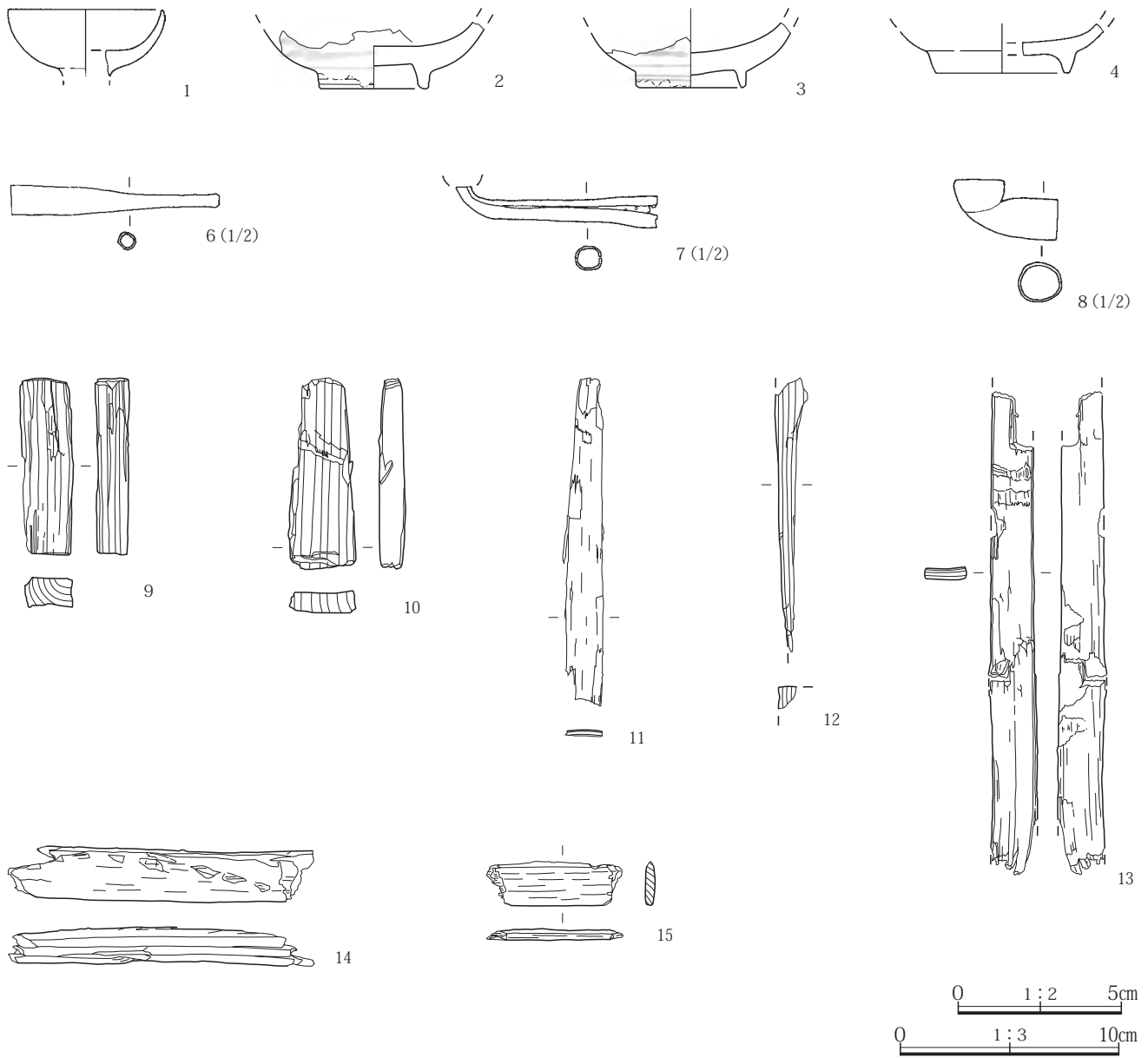


第19図 A区出土遺物

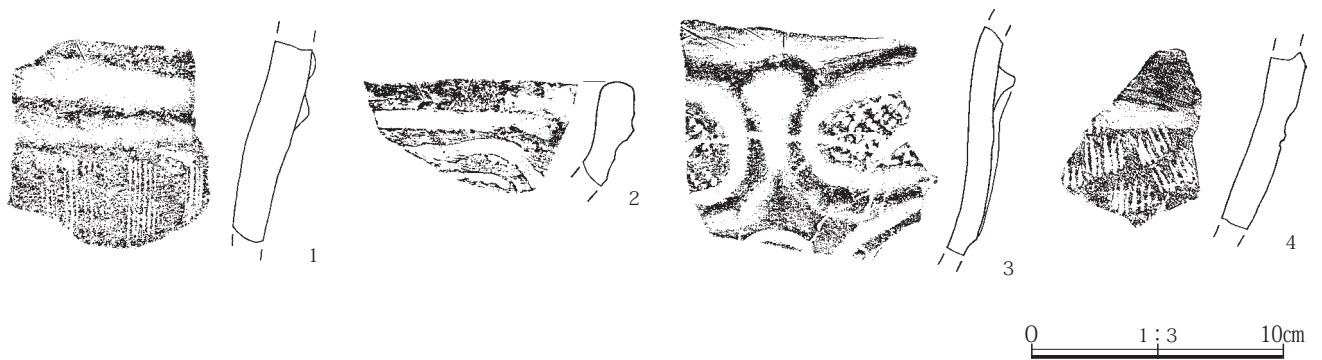


第20図 B区出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第21図 C区出土遺物



第22図 D区出土遺物

第4章 まとめ

第1節 畑

本遺跡では、吾妻川左岸の中位段丘面である台地上のほぼ全域で天明三年(1783)の浅間山の大噴火に伴う泥流に覆われた畑が検出された。この天明泥流で埋没した家屋では、1980(昭和55)年に発掘調査された吾妻郡嬭恋村鎌原遺跡、農地としては1982(昭和57)年に発掘調査された渋川市中村遺跡で検出されて以来、浅間山の東に位置する碓氷川沿いの安中市や、利根川沿いの高崎市や前橋市にかけての地域を中心に、畑や水田などの生産基盤や居住空間である集落等が埋没した状態で検出されている。その県内での広がりには、北は渋川市、南は富岡市から藤岡市、東はみどり市の範囲にまで及んでいる。

本遺跡のある長野原町や西に隣接する東吾妻町でも、表1で分かるように、天明泥流で覆われた畑等が検出された遺跡が本遺跡と同様に、河岸段丘の中位面に相当する台地の全面に畑がほぼ広がっている状態が多数ある。特に、上郷岡原遺跡、下湯原遺跡や石川原遺跡では集落全域がそのままに検出されており、周辺地区と繋がる道や水路、さらには街道沿いの家屋が連なる様子も見取れ、当時の景観を具体的に復元できる。

そして、その畑には畝の幅が30cmと50～70cmの2種類があり、これまでの所見から前者は麻で、後者は麻以外の他の種類と想定されている。上郷岡原遺跡での畑の一角からは、「根切り」・「葉切り」の工程で切り落とされたとみられる麻の根や葉が多量に出土した。このことから、泥流に埋まる直前の畑では、麻の収穫が始まっていたことが分かる。また、泥流になぎ倒された形で東側に向いた細い茎状の植物痕が吾妻川沿いのいくつかの遺跡で多数検出されている。

また、畑の地境には作業道や石垣等が設けられる事が多い。耕作に邪魔な石を山積みにした「ヤックラ」と呼ば

れる集石遺構も地境際に設けられる事もある。

上郷岡原遺跡の所在する岩島地区は、古くから優良な麻の生産地として知られており、麻を利用した建物や広い麻畑の存在は、それらを具体的に物語る貴重な資料である。同様の中位段丘面に位置する本遺跡や石川原遺跡、下湯原遺跡等の長野原町地区の遺跡でも、同様な遺構が検出されており、麻の生産を想定できる。

一方、前回報告の母屋の室内の一角にある馬小屋の床に敷かれた木の葉や藁などが、馬の排出物と混ざり込んでいる状態で検出された。こうした有機質が畑に撒かれることで、悪化した畑の土壌を改善するための堆肥、つまり、肥料として利用される事例も認められる。

さらに、利用できる土地の有効利用を図るために、周辺での他の遺跡との比較を通して分かるように、台地の縁の傾斜変換線際まで畑に利用して、その中を規則的に区画する事で、生産性の向上を図っていたのが理解できる。

参考文献

- 関俊明『浅間山大噴火の爪痕—天明三年浅間災害遺跡』.新泉社. 2010
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『自然災害と考古学』上毛新聞社. 2013
- 八ッ場ダム発掘調査集成(1)東宮・石畑・川原湯勝沼・横壁勝沼・西久保I・山根III・下田・花畑・楡木III・尾坂(財)群埋文303集 2003
- 久々戸遺跡・中棚II遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡(財)群埋文319集 2003
- 久々戸遺跡(2)・中棚II遺跡(2)・西ノ上・上郷A遺跡(財)群埋文349集 2004
- 下原遺跡II(財)群埋文389集 2007
- 上郷岡原遺跡(1)(財)群埋文410集 2007
- 上郷岡原遺跡(2)(財)群埋文438集 2008
- 上郷A遺跡(2)(財)群埋文473集 2009
- 東宮遺跡(1)(財)群埋文514集 2011
- 東宮遺跡(2)(財)群埋文536集 2012
- 町遺跡(公財)群埋文593集 2014

表2 遺構数一覧表

	住居	掘立柱建物	建物	再葬墓	土坑	埋葬	焼土	石垣	畑	列石	取水施設	河道	石列	集石	暗渠	道	水場	円形遺構	溝	ピット
縄文	5				292	7	6			2										
弥生				1	28															
平安	11				55		2													2
中・近世		3			45		6													2
江戸			4		4		1	9	321		1	1	2	1	1	21	1	1		16



第24図 近世陶磁器・在地土器出土分布図

遺構一覧表

表3 遺構一覧表

畑

号	区	面	平坦面	畝(本)	面積(m)	畝の方向	調査区	写真
OS6-1	72	1		4	15×1.8	北東-南西	A区	PL.1
OS6-2	72	1	OS6-2平	31	18×21	北東-南西	A区	PL.1
OS6-4	72	1		23	12×7	北東-南西	A区	PL.1
OS13-2	72・73	1		40	16×9	北東-南西	A区	PL.1
OS40	72	1		16	10×8	北東-南西	A区	PL.1
OS26-4	63・73	1		20	11×10	北東-南西	B区	PL.3
OS26-5	62・63	1		26	-	北東-南西(攪乱多)	B区	PL.3
OS26-7	63	1		25	18.5×9	北東-南西	B区	PL.3
OS26-8	63	1	OS26-8平	38	19×18.5	北東-南西	B区	PL.3
OS26-9	63	1	OS26-9平	21	19×11	北東-南西	B区	PL.3
OS26-10	63	1	OS26-10平	31	16×16	北東-南西	B区	PL.3
OS26-11	63	1		18	20×10	北東-南西(攪乱多)	B区	PL.3
OS26-12	63	1	OS26-12平	23	21×12	北東-南西	B区	PL.3
OS26-13	63	1	OS26-13平	16	21×9	北東-南西(攪乱多)	B区	PL.3
OS27-7	63	1		12	-	北西-南東(攪乱多)	B区	PL.3
OS32-5	63	1		13	5×5	東-西	C区	PL.9・10
OS32-4	63	1		12	12×5	東-西	C区	PL.9・10
OS32-6	63	1	OS32-6平	12	12×5	東-西	C区	PL.9・10
OS33	64	1	OS33平	9	-	東-西(攪乱多)	C区	PL.9・10
OS34-1	64	1		10	5×3	東-西	C区	PL.9・10
OS34-2	64	1		17	9×4	東-西	C区	PL.9・10
OS34-3	64	1	OS34-3平	24	14×12	東-西(攪乱多)	C区	PL.9・10
OS30	64・74	1		-	-	北西-南東	D区	PL.12
OS31	74・75	1		-	-	北西-南東	D区	PL.12
OS35	64	1		-	-	北西-南東	D区	PL.12
OS5-3	72・82	1		-	-	-	E区	PL.20-6・7
OS5-4	72	1		-	-	-	E区	PL.20-8
OS40	72	1		4	6.5×2.5	北東-南西	E区	PL.20-5

道

番号	区	面	グリッド	長さ(m)	幅(m)	走行方向	調査区	写真
20	72	1	R-15～18、S-16	11.40	0.30	北-南	A区	
21	62・63	1	X-21～23、Y-19～21 A-19、H-12、I-11・12、J-11、K-10・11	(32.00)	0.50	北東-南西	B区	
22	73	1	N～P-2	8.10	1.10	東-西	E区	PL.17-4
23	64	1	O～R-15	10.60	0.30	東-西	D区	PL.15-4・5、20-1
24	72	1	O-20	2.10	0.60	北東-南西	E区	PL.20-5・7・8
25	72	1	O-19・20、P-20	5.40	0.40	北西-南東	E区	PL.20-5

石垣

番号	区	面	グリッド	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方向	調査区	写真
8	63	1	P-7、Q-7・8	6.20	0.30	4.90	北-南	C区	PL.10-8
9	64	1	P～R-15	9.00	0.60	0.80	東-西	D区	

土坑

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	分類	新旧関係	調査区	写真
400	72	2	S-18	(150)	(124)	60	N-49°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-5
401	72	2	S-15・16、T-16	338	106	22	N-48°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-6・7
402	72	2	T・U-16	358	106	23	N-38°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-8・9
403	72	2	V-13	(125)	52	34	N-49°-W	隅丸長方形	1類		A区	PL.1-10
404	72	2	W-12	126	66	27	N-18°-W	隅丸長方形	2類		A区	PL.2-1・2
405	72	2	R-16・17、S-17	130	80	17	N-36°-E	楕円形	3類		A区	PL.2-3・4
406	72	2	U・V-16	98	85	20	N-42°-W	楕円形	3類		A区	PL.2-5・6
407	72	2	U・V-16	84	64	28	N-10°-W	楕円形	3類		A区	PL.2-7・8
408	72	2	W-14・15	212	74	15	N-40°-E	隅丸長方形	2類		A区	PL.2-9・10
409	63	2	H-15・16	532	82	39	N-30°-W	隅丸長方形	1類		B区	PL.4-4
410	63	2	I・J-14	210	124	50	N-65°-W	隅丸長方形	3類	411号土坑より新しい。	B区	PL.4-5・7
411	63	2	J-14	(45)	72	38	-	楕円形	3類	410号土坑より古い。	B区	PL.4-6・7
412	63	2	J-11	192	155	38	N-58°-W	不定形	3類		B区	PL.4-8・9
413	63	2	I・J-19・20	(114)	75	46	N-39°-E	隅丸長方形	1類		B区	PL.4-10・11
414	63	2	B-20・21	80	52	16	N-39°-E	楕円形	3類		B区	PL.5-1・2
415	63	2	B-20	100	74	16	N-44°-W	楕円形	3類		B区	PL.5-3・4
416	63	2	C・D-18	140	108	33	N-40°-E	楕円形	3類		B区	PL.5-5・6
417	63	2	I-21	48	42	20	N-52°-E	不定形	3類		B区	PL.5-7・8
418	63	2	I-22	76	58	23	N-88°-W	楕円形	3類		B区	PL.5-9・10
419	63	2	H-20	102	76	38	N-54°-W	隅丸長方形	3類		B区	PL.5-11・12
420	63	2	H-22	48	-	20	-	円形	3類		B区	PL.5-13・14
421	63	2	H-23・24	90	74	26	N-10°-E	楕円形	3類		B区	PL.5-15、6-1
422	63	2	F・G-18	60	-	23	-	円形	3類		B区	PL.6-2

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	分類	新旧関係	調査区	写真
423	63	2	I-23	128	-	42	-	円形	3類		B区	PL.6-3・4
424	63	2	E-22・23	90	-	24	-	円形	3類		B区	PL.6-5・6
425	63	2	D・E-20	118	97	48	N-40°-E	楕円形	3類		B区	PL.6-7・8
426	63	2	C・D-22・23	122	113	21	N-10°-W	楕円形	3類		B区	PL.6-9・10
427	63	2	E-20・21	154	120	83	N-36°-W	楕円形	3類		B区	PL.6-11・12
428	75	2	B-4・5	174	-	80	-	円形	3類		D区	PL.13-1・2
429	75	2	B-4	87	(74)	63	N-43°-E	不定形	3類		D区	PL.13-3・4
430	75	2	A-5	32	(18)	13	N-17°-E	楕円形	3類		D区	PL.13-5~7
431	64	2	O-25	46	-	13	-	円形	3類		D区	PL.13-8・9
432	64	2	O-25	(76)	64	28	N-70°-W	楕円形か?	3類		D区	PL.13-10・11
433	75	2	A・B-5	(75)	-	63	-	円形	3類		D区	PL.13-12・13
434	64	2	O-24	74	-	18	-	円形	3類		D区	PL.13-14・15
435	64・74	2	O-25、O-1	245	142	30	N-88°-W	隅丸長方形	3類	438号土坑より新しい。	D区	PL.14-1・2
436	64	2	O-25	(54)	66	20	N-70°-W	楕円形	3類		D区	PL.14-3
437	64	2	Q・R-22	184	-	30	-	円形	3類		D区	PL.14-4・5
438	74	2	O-1	80	(27)	27	-	不明	3類	435号土坑より古い。	D区	PL.14-6・7
439	75	2	B-5	105	100	33	N-37°-W	楕円形	3類		D区	PL.14-8・9
440	74	2	Y-5	110	90	25	N-85°-E	隅丸長方形	3類		D区	PL.14-10・11
441	75	2	A-4	88	(56)	40	N-48°-W	隅丸長方形	3類		D区	PL.14-12・13

ピット

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	調査区	写真
101	63	2	C-18	40	23	11	N-37°-N	楕円形	B区	PL.6-13
102	63	2	B-19	31	28	12	N-38°-W	円形	B区	PL.6-14
103	63	2	H-21	42	36	14	-	円形	B区	PL.6-15
104	63	2	I-22	38	26	23	N-29°-E	不定形	B区	PL.6-16
105	63	2	I-22	40	34	20	-	円形	B区	PL.7-1
106	63	2	I-22	49	32	41	N-55°-E	楕円形	B区	PL.7-2
107	63	2	I-22	53	43	42	N-56°-E	楕円形	B区	PL.7-3
108	63	2	H-22	50	44	29	N-21°-W	楕円形	B区	PL.7-4
109	63	2	H-22	50	45	27	N-0°	楕円形	B区	PL.7-5
110	63	2	H-22	35	25	48	N-13°-W	隅丸長方形	B区	PL.7-6
111	63	2	I-22	22	22	25	-	不定形	B区	PL.7-7
112	63	2	I-21	48	33	26	N-8°-E	楕円形	B区	PL.7-8
113	63	2	I-21	44	32	21	N-5°-W	楕円形	B区	PL.7-9
114	63	2	I-21	20	20	13	-	円形	B区	PL.7-10
115	63	2	H-21	34	32	20	N-17°-E	楕円形	B区	PL.7-11
116	63	2	H-20	50	42	49	-	円形	B区	PL.7-12
117	63	2	G・H-21	46	40	28	N-65°-E	円形	B区	PL.7-13
118	63	2	H-20	36	32	37	-	円形	B区	PL.7-14
119	63	2	H-20	34	28	21	N-70°-W	楕円形	B区	PL.7-15
120	63	2	H-20・21	47	28	28	N-24°-W	楕円形	B区	PL.7-16
121	63	2	G-21	40	30	14	N-58°-W	楕円形	B区	PL.7-17
122	63	2	G-21	60	54	28	-	円形	B区	PL.7-18
123	63	2	I-23	54	50	30	N-27°-W	円形	B区	PL.7-19
124	63	2	H-22	58	30	29	N-30°-W	楕円形	B区	PL.7-20
125	63	2	G-22	43	37	12	N-49°-W	楕円形	B区	PL.7-21
126	63	2	F-19	23	20	13	-	円形	B区	PL.7-22
127	63	2	F-19	35	30	14	-	円形	B区	PL.7-23
128	63	2	C-21	48	42	18	N-68°-W	楕円形	B区	PL.7-24
129	75	2	A-3	22	16	9	N-10°-E	楕円形	D区	PL.14-14
130	74	2	Y-3	27	26	5	-	円形	D区	PL.14-15
131	74	2	Y-3	66	54	14	N-46°-W	不定形	D区	PL.15-1
132	74	2	X-2	22	17	3	N-42°-W	楕円形	D区	PL.15-2
133	74	2	W-2	38	26	8	N-70°-E	不定形	D区	PL.15-3

焼土

番号	区	面	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	形状	調査区	写真
19	63	2	C-22	88	32	14	N-82°-W	楕円形	B区	PL.8-1

表4 遺物観察表

A区

挿図 PL.No	No	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第19図 PL.21	1	磁器・梁付 碗	体~底部	畑	底: (6.0)	灰白色。	松と海辺か。	波佐見系

B区

挿図 PL.No	No	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第20図 PL.21	1	軟質陶器 土釜	口縁部	12,15,16		褐・黒色粒。	口縁やや外反。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第20図 PL.21	2	縄文土器 深鉢	底部	9,23	底:(7.2)	褐・黒色粒。	底面の剥がれが激しい。	
第20図 PL.21	3	陶器 搦鉢	体~底部	畑	底:(13.0)	白・褐色粒。	8本の櫛目。	常滑か。
PL.21	4	磁器・青磁 碗	体部	畑		灰白色。	輪花碗。	中国瀧泉窯
PL.21	5	磁器・青磁 碗	体部			白色。	輪花碗。	中国瀧泉窯
第20図 PL.21	6	銭貨 治平元寶	完形	0S26-9号畑1	径:2.35、重:2.2		中国北宋1064年	

C区

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第21図 PL.21	1	磁器・染付 小皿	口~体部	0S33号畑15	口:(3.5)	白色。	文様不明。	波佐見系
第21図 PL.21	2	磁器・染付 碗	体~底部	0S34-3号畑43	底:(5.0)	灰白色。	文様不明。	波佐見系
第21図 PL.21	3	磁器・染付 碗	体~底部	0S33号畑22	底:(5.0)	灰白色。	文様不明。	波佐見系
第21図 PL.21	4	磁器・染付 碗	底部	0S33号畑13	底:(6.0)	灰白色。		
PL.21	5	磁器・染付 小皿	口縁部	0S33号畑41		白色。	波状口縁。化粧用の皿。	
第21図 PL.21	6	金属製品 煙管・吸口	完形	0S33畑42	長:6.3、幅:0.9 厚:0.05、重:3.7			
第21図 PL.21	7	金属製品 煙管・雁首	火皿欠損	溝2	長:(6.2)、重:4.5		2類。	
第21図 PL.21	8	金属製品 煙管・雁首	完形	5号トレンチ	長:3.0、幅:1.2 厚:0.06、重:5.7		4類。	
第21図 PL.21	9	木片		畑			柁目か。	
第21図 PL.21	10	木片		畑			柁目。	
第21図 PL.21	11	木皮		畑				
第21図 PL.21	12	木片		0S33号畑34				
第21図 PL.21	13	木片		0S33号畑29			柁目。	
第21図 PL.21	14	木片		0S33畑12			柁目。	
第21図 PL.21	15	木片		0S33号畑25			柁目か。	
PL.21	16	木片		0S33畑14				
PL.21	17	種子	欠損	畑	長:2.47、幅:1.98		18と同個体。	桃
PL.21	18	種子	欠損	畑	長:(2.55)、幅:(1.97)		17と同個体。	桃
PL.21	19	種子	欠損	0S33号畑19	長:(2.41)、幅:1.86		20と同個体。	桃
PL.21	20	種子	欠損	0S33号畑19	長:(2.40)、幅:1.88		19と同個体。	桃
PL.21	21	種子	欠損	0S33号畑5	長:2.92、幅:(2.07)			桃
PL.21	22	種子	欠損	0S34-1号畑40	長:(2.56)、幅:(2.09)			桃
PL.21	23	種子	欠損	畑	長:(2.41)、幅:(1.84)			桃
PL.21	24	種子	欠損	0S33号畑24	長:(2.58)、幅:(1.65)			桃
PL.21	25	種子	欠損	畑	長:(2.23)、幅:(2.28)			胡桃
PL.21	26	種子	欠損	畑	長:1.34、幅:(1.05)			?
PL.21	27	松笠		0S32-6号畑3				
PL.21	28	松笠		0S34-3号畑44				

D区

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	残存	出土位置	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/素材等	特徴	備考
第22図 PL.21	1	縄文土器 深鉢	胴部	428号土坑		白・黒・褐色粒。砂礫多い。	隆線。櫛目文。	
第22図 PL.21	2	縄文土器 深鉢	口縁部	433号土坑1		白・黒・褐色粒。	沈線。内面横撫で。	
第22図 PL.21	3	縄文土器 深鉢	胴部	441号土坑1		白・黒・褐色粒。砂礫。	隆線+沈線区画。縄文。	加曾利E式
第22図 PL.21	4	縄文土器 深鉢	胴部			白・褐色粒。砂礫。	櫛目文。内外横撫で。	

写真図版



1. A区1面全景(南から)



2. A区1面全景(北から)



3. A区20号道全景(南西から)



4. A区2面全景(南西から)



5. A区400号土坑・1号壁セクション
(南東から)



6. A区401号土坑セクション(北西から)



7. A区401号土坑全景(北西から)



8. A区402号土坑セクション(北西から)



9. A区402号土坑全景(北西から)



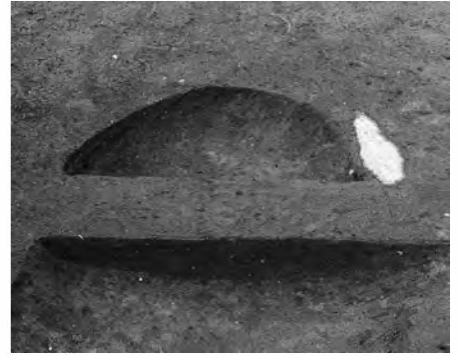
10. A区403号土坑セクション(北西から)



1. A区404号土坑セクション(北から)



2. A区404号土坑全景(北から)



3. A区405号土坑セクション(南西から)



4. A区405号土坑全景(北東から)



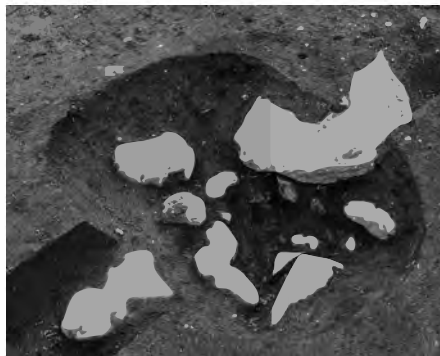
5. A区406号土坑セクション(南から)



6. A区406号土坑全景(南から)



7. A区407号土坑セクション(南から)



8. A区407号土坑全景(北東から)



9. A区408号土坑セクション(南西から)



10. A区408号土坑全景(南から)



11. A区2号壁(東壁)セクション(西から)



12. A区3号壁(東壁)セクション(西から)



1. B区1面北部(南東から)



2. B区1面北西部(北西から)



3. B区1面北西部(南から)



4. B区1面中央部(北東から)



5. B区1面中央部(北から)



6. B区2面全景(南から)



7. B区2面北部(南西から)

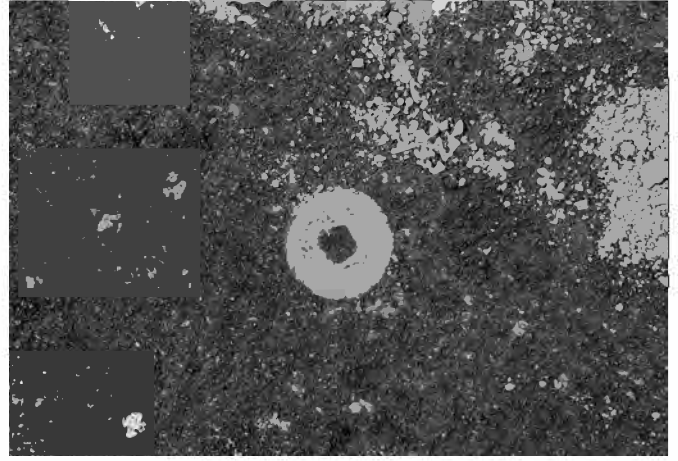


8. B区2面北東部(北から)

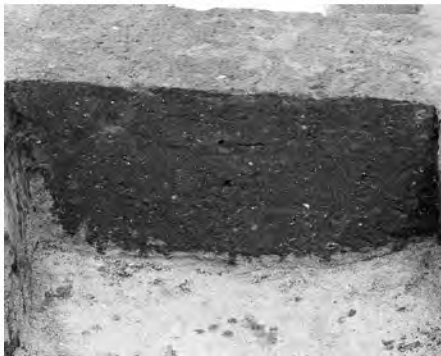
PL.4



1. B区2面南部(南西から)



2. B区遺物出土状態(南から)



3. B区409号土坑セクション(南東から)



4. B区409号土坑全景(南東から)



5. B区410号土坑セクション(西から)



6. B区411号土坑セクション(南から)



7. B区410・411号土坑全景(西から)



8. B区412号土坑セクション(北東から)



9. B区412号土坑全景(南東から)



10. B区413号土坑セクション(北東から)



11. B区413号土坑全景(南から)



1. B区414号土坑セクション(南西から)



2. B区414号土坑全景(南東から)



3. B区415号土坑セクション(南東から)



4. B区415号土坑全景(南から)



5. B区416号土坑セクション(西から)



6. B区416号土坑全景(東から)



7. B区417号土坑セクション(南東から)



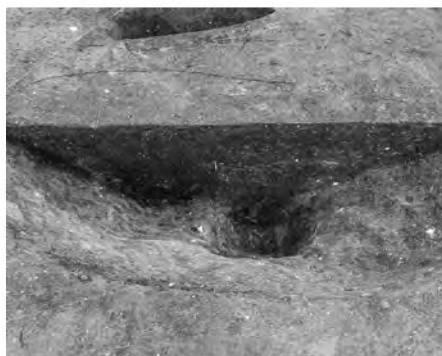
8. B区417号土坑全景(南西から)



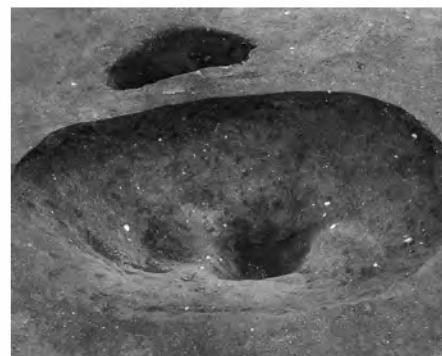
9. B区418号土坑セクション(南から)



10. B区418号土坑全景(南から)



11. B区419号土坑セクション(北東から)



12. B区419号土坑全景(北東から)



13. B区420号土坑セクション(南西から)



14. B区420号土坑全景(南から)



15. B区421号土坑セクション(西から)

PL.6



1. B区421号土坑全景(東から)



2. B区422号土坑セクション(南から)



3. B区423号土坑セクション(東から)



4. B区423号土坑全景(西から)



5. B区424号土坑セクション(南東から)



6. B区424号土坑全景(東から)



7. B区425号土坑セクション(南から)



8. B区425号土坑全景(南東から)



9. B区426号土坑セクション(南東から)



10. B区426号土坑全景(南から)



11. B区427号土坑セクション(南から)



12. B区427号土坑全景(南東から)



13. B区101号ピットセクション
(北から)



14. B区102号ピットセクション
(南西から)



15. B区103号ピットセクション
(東から)



16. B区104号ピットセクション
(南東から)



1. B区105号ピットセクション
(南東から)



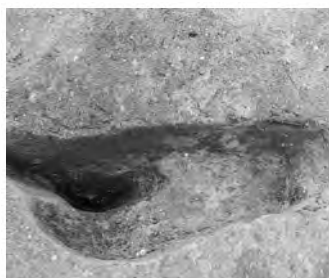
2. B区106号ピットセクション
(南東から)



3. B区107号ピットセクション
(南東から)



4. B区108号ピットセクション
(東から)



5. B区109号ピットセクション
(南東から)



6. B区110号ピットセクション
(南から)



7. B区111号ピットセクション
(南東から)



8. B区112号ピットセクション
(東から)



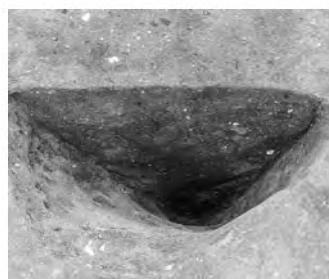
9. B区113号ピットセクション
(東から)



10. B区114号ピットセクション
(南から)



11. B区115号ピットセクション
(東から)



12. B区116号ピットセクション
(東から)



13. B区117号ピットセクション
(南東から)



14. B区118号ピットセクション
(南東から)



15. B区119号ピットセクション
(北東から)



16. B区120号ピットセクション
(北東から)



17. B区121号ピットセクション
(東から)



18. B区122号ピットセクション
(北西から)



19. B区123号ピットセクション
(東から)



20. B区124号ピットセクション
(南東から)



21. B区125号ピットセクション
(南から)



22. B区126号ピットセクション
(南東から)



23. B区127号ピットセクション
(南東から)



24. B区128号ピットセクション
(南西から)



1. B区19号焼土セクション(北から)



2. B区1号壁(西壁)セクション(南東から)



3. B区2号壁(西壁)セクション(南東から)



4. B区3号壁(西壁)セクション(東から)



5. B区4号壁(北壁)セクション(南から)



6. B区5号壁(東壁)セクション(西から)



7. B区6号壁(南東壁)セクション(北西から)



8. B区1号トレンチ全景(西から)



1. B区2号トレンチ全景(南から)



2. B区3号トレンチ全景(南から)



3. B区4号トレンチ全景(東から)



4. B区5号トレンチ全景(東から)



5. C区全景(南から)



6. C区西部(南から)



7. C区西部(西から)



8. C区東部(東から)



1. C区耕作痕(北から)



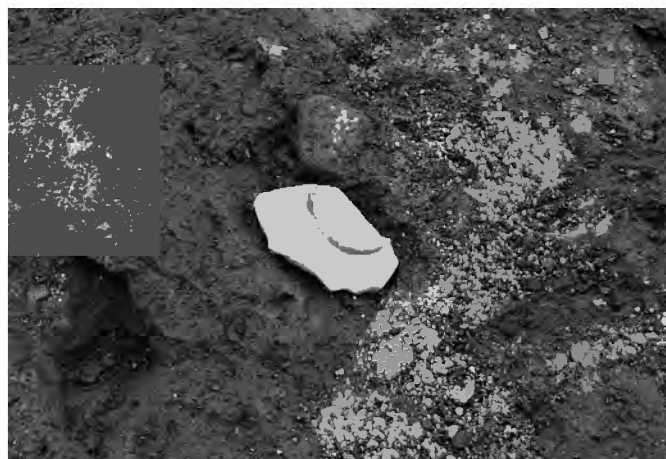
2. C区拡張部(西から)



3. C区拡張部(東から)



4. C区8号石垣全景(西から)



5. C区遺物出土状態(南から)



6. C区遺物出土状態(南から)



7. C区遺物出土状態(南から)



8. C区8号石垣・1号トレンチセクション(南から)



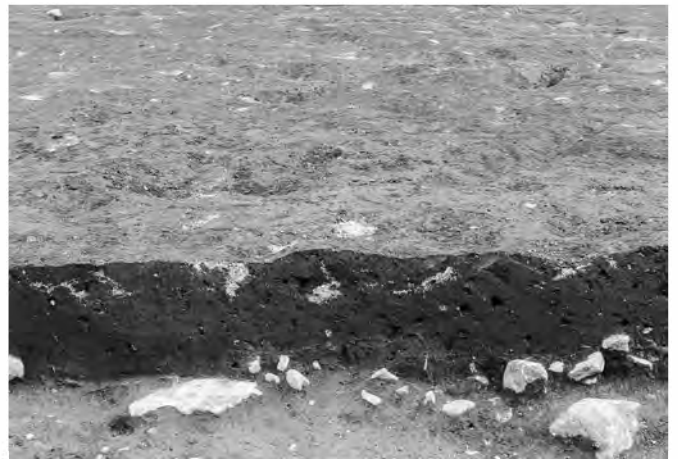
1. C区2号トレンチ全景(南西から)



2. C区3号トレンチ全景(東から)



3. C区4号トレンチ(北から)



4. C区5号トレンチ(北から)



5. C区6号トレンチ(西から)



6. C区7号トレンチ(南から)



7. C区8号トレンチ(東から)



1. D区1面北西部(東から)



2. D区1面北西部(北西から)



3. D区2面北西部(西から)



4. D区2面北西部(東から)



5. D区1面北東部(東から)



6. D区2面北東部(東から)



7. D区1面南部(東から)



8. D区1面南部(東から)



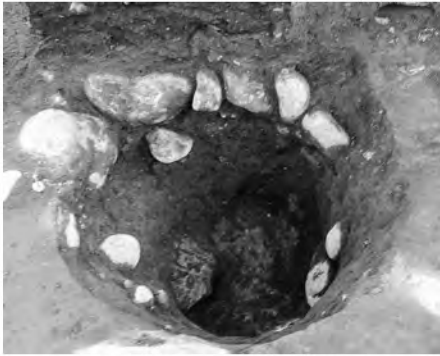
1. D区428号土坑セクション(南西から)



2. D区428号土坑全景(北東から)



3. D区429号土坑セクション(北東から)



4. D区429号土坑全景(北東から)



5. D区430号土坑セクション(北から)



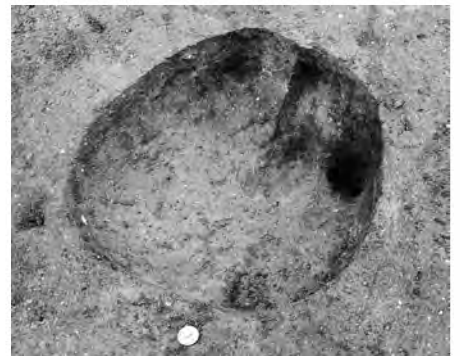
6. D区430号土坑全景(東から)



7. D区430号土坑完掘(南から)



8. D区431号土坑セクション(南東から)



9. D区431号土坑全景(南西から)



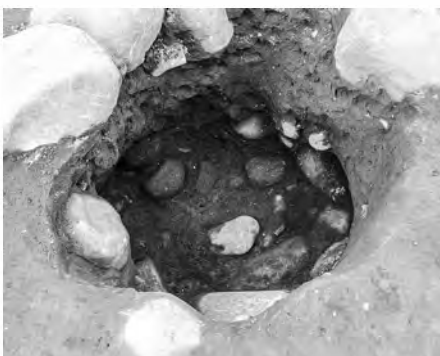
10. D区432号土坑セクション(北から)



11. D区432号土坑全景(北東から)



12. D区433号土坑セクション(東から)



13. D区433号土坑全景(東から)



14. D区434号土坑セクション(北から)



15. D区434号土坑全景(北西から)



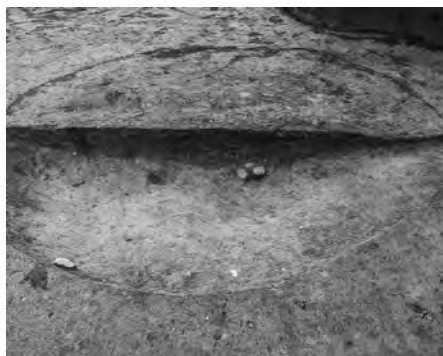
1. D区435号土坑セクション(西から)



2. D区435号土坑全景(西から)



3. D区436号土坑セクション(東から)



4. D区437号土坑セクション(西から)



5. D区437号土坑全景(北西から)



6. D区438号土坑セクション(南西から)



7. D区438号土坑全景(南西から)



8. D区439号土坑セクション(北から)



9. D区439号土坑全景(北東から)



10. D区440号土坑セクション(南西から)



11. D区440号土坑全景(南から)



12. D区441号土坑セクション(北西から)



13. D区441号土坑全景(北西から)



14. D区129号ピットセクション(西から)



15. D区130号ピットセクション(南から)



1. D区131号ピットセクション(南から)



2. D区132号ピットセクション(南東から)



3. D区133号ピットセクション(南東から)



4. D区23号道全景(南から)



5. D区23号道セクション(東から)



6. D区1号壁セクション(南から)



7. D区1号トレンチ(南東から)



8. D区2号トレンチ(南東から)



9. D区3号トレンチ(南東から)



1. D区4号トレンチ(南東から)



2. D区5号トレンチ(南西から)



3. D区6号トレンチ(東から)



4. D区7号トレンチ(東から)



5. D区8号トレンチ(南から)



6. D区9号トレンチ全景(北から)



7. D区10号トレンチ全景(南から)



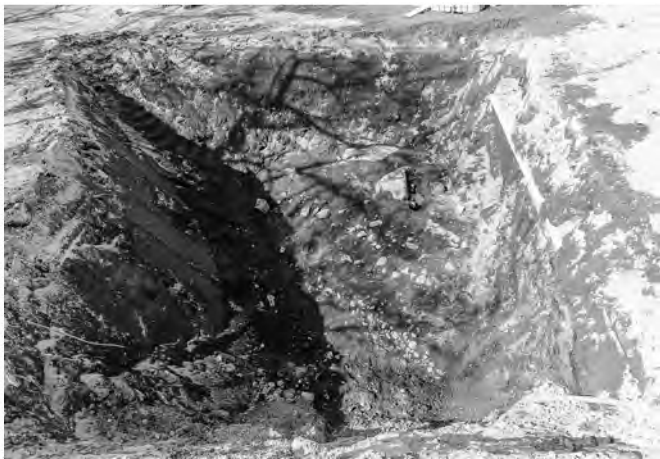
8. D区11号トレンチ全景(東から)



1. D区12号トレンチ全景(東から)



2. E区全景(西から)



3. E区全景(東から)



4. E区22号道(西から)



5. 調査準備風景(南から)



6. A区調査風景(西から)



7. A区1面畑調査風景(南から)



8. B区1面掘削作業風景(南から)



1. B区1面調査風景(北東から)



2. B区1面畑調査風景(南西から)



3. B区2面調査風景(北西から)



4. B区409号土坑調査風景(北から)



5. B区2号トレンチ調査風景(南から)



6. B区北西部埋め戻し作業風景(北から)



7. C区1面調査風景(西から)



8. C区1面西部調査風景(南から)



1. C区1面東部調査風景(北から)



2. C区1面東部畑調査風景(北西から)



3. C区2号トレンチ調査風景(西から)



4. C区5・6号トレンチ調査風景(北から)



5. D区表土掘削風景(東から)



6. D区南部表土掘削風景(東から)



7. D区北西部測量作業風景(東から)



8. D区北西部調査風景(東から)



1. D区南部23号道調査風景(南から)



2. E区1面掘削作業風景(北から)



3. E区調査風景(東から)



4. E区掘削状況(南西から)



5. E区40畑、24・25号道検出状況(南から)



6. E区1号トレンチ：5-3畑検出状況(南から)



7. E区2号トレンチ：5-3畑、24号道検出状況(西から)

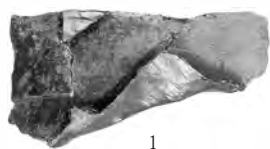


8. E区3号トレンチ：5-4畑、24号道検出状況(西から)

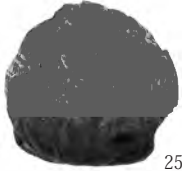
A区出土遺物



B区出土遺物



C区出土遺物



D区出土遺物



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第638集

尾坂遺跡(3)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第56集

平成30(2018)年3月9日 印刷

平成30(2018)年3月15日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

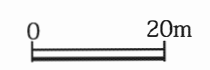
電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社

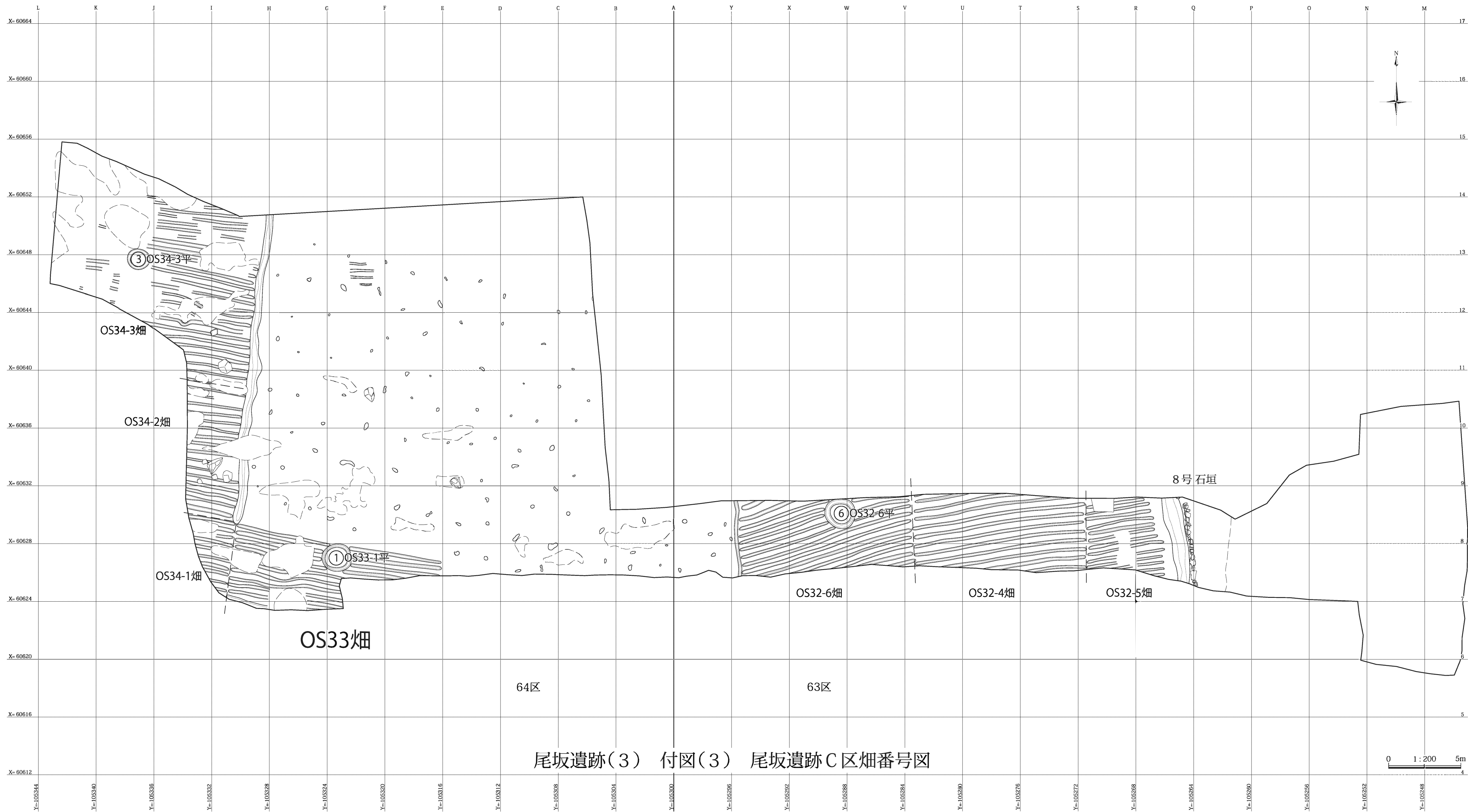


尾坂遺跡(3) 付図(1) 尾坂遺跡第1面(天明泥流)遺構分布図



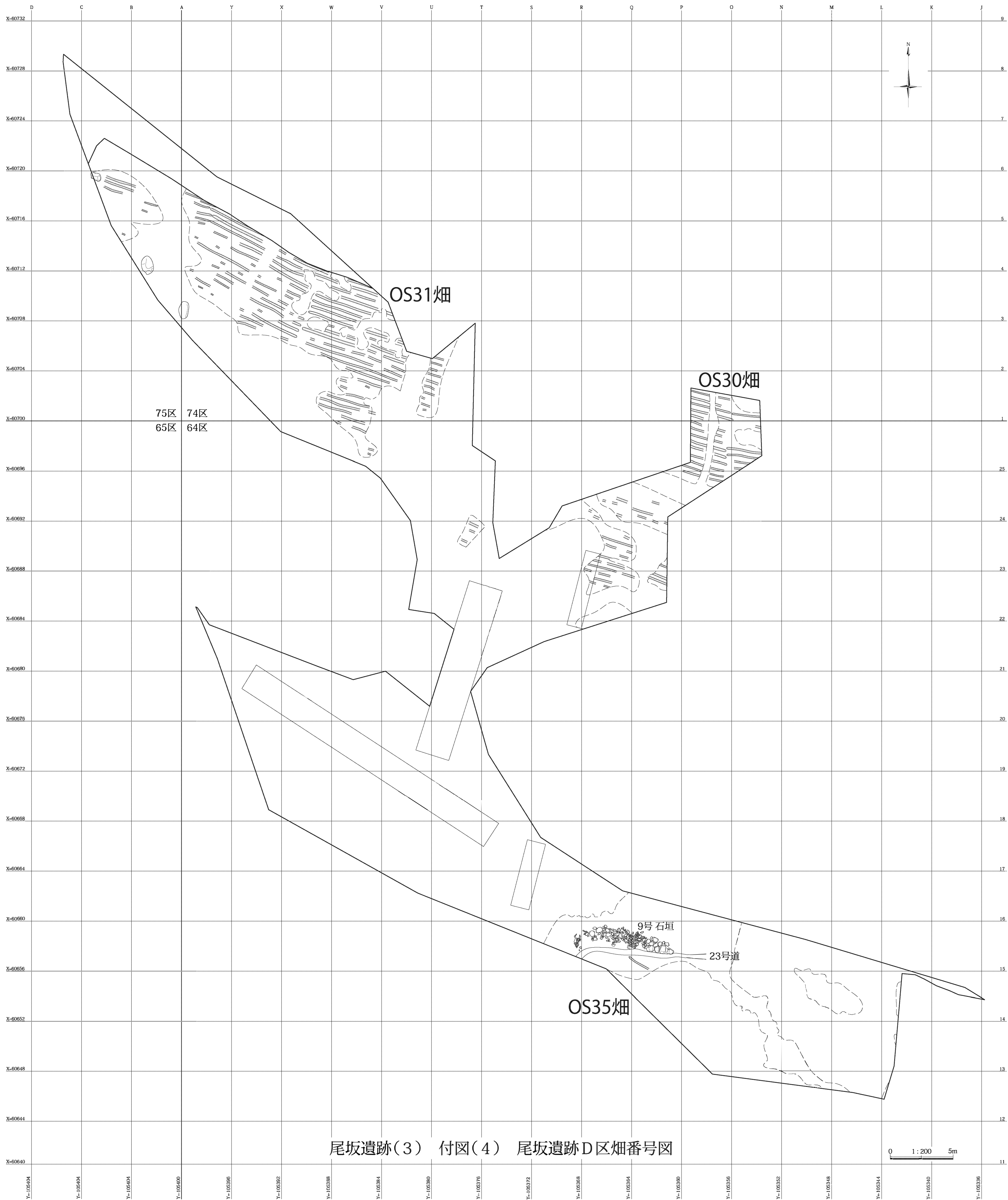


尾坂遺跡(3) 付図(2) 尾坂遺跡中近世以前遺構分布図



尾坂遺跡(3) 付図(3) 尾坂遺跡C区畑番号図

0 1:200 5m



尾坂遺跡(3) 付図(4) 尾坂遺跡D区畑番号図